

## 5.6 動物

### 5.6.1 調査項目

調査項目は、表 5.6-1 に示すとおりである。また、事業の実施による外来種の分布拡大や新たな外来種の侵入が懸念されることから、外来種の状況も調査項目に加えることとした。

表 5.6-1 動物に係る調査項目

環境要素	調査項目
動物	動物相の状況（哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、昆虫類、底生動物）
	重要な動物種、外来種および重要な動物の生息地

### 5.6.2 調査実施日

調査実施日は、表 5.6-2 に示すとおりである。

表 5.6-2 動物に係る調査実施日

分類群	調査方法	設定理由
哺乳類	フィールドサイン法	令和 6 年 12 月 17 日～18 日、14 日 5 月 16 日～17 日 7 月 13 日～14 日 10 月 11 日、20 日
	自動撮影法	令和 6 年 2 月 17 日～13 月 11 日（連続） 5 月 16 日～12 月 2 日（連続）
	コウモリ類鳴き声録音	令和 6 年 8 月 5 日～13 日（連続）
鳥類	定点観察(猛禽類)	令和 6 年 5 月 11 日～12 日 6 月 12 日～13 日 7 月 11 日～12 日
	定点観察・移動観察 (猛禽類以外)	令和 6 年 5 月 16 日～17 日、29 日 7 月 13 日～14 日 10 月 11 日、20 日
	営巣木調査	令和 6 年 12 月 17 日～18 日、14 日
両生類	任意確認調査	令和 6 年 5 月 16 日～17 日 7 月 13 日～14 日 9 月 13 日、5 日、8 日
爬虫類	任意確認調査	令和 6 年 5 月 16 日～17 日 7 月 13 日～14 日 9 月 13 日、5 日、8 日
昆虫類	一般採集法	令和 6 年 5 月 16 日～17 日 7 月 13 日～14 日(補足) 8 月 15 日～16 日 9 月 13 日～15 日 9 月 11 日～12 日
	ライトトラップ法	令和 6 年 8 月 15 日～16 日 9 月 17 日～18 日
	ベイトトラップ法	令和 6 年 8 月 6 日～13 日（連続）
底生動物	任意確認調査	令和 6 年 9 月 5 日、8 日

※7/5～9/4、9/13～27の期間は、調査地近傍におけるヒグマ出没件数の増加により、調査地の一部(三角山～大倉山～小別沢散策路および大倉山遊歩道)が閉鎖。

### 5.6.3 調査方法

#### (1) 哺乳類調査

フィールドサイン法は、調査地を踏査し、個体の目視、痕跡(足跡、糞、食痕跡等)によって生息種の確認位置、確認状況を記録した。

自動撮影法は、調査地において、赤外線自動撮影カメラを設置し、撮影された種を確認した。カメラは調査期間中設置し、適宜電池およびデータの交換をおこなった。

コウモリ類鳴き声録音は、調査地において、データロガー型バットディテクターを設置し、コウモリ類の鳴き声から生息状況(周波数(種類)、頻度(生息数)等)を確認した。バットディテクターは1週間程度設置した。

#### (2) 鳥類調査

定点観察(猛禽類対象)は、定点観察地点において猛禽類の確認に努めた。調査時間は猛禽類が確認されやすい早朝～日中の8時間とし、2日間実施した。調査機材は双眼鏡(8倍)および望遠鏡(20倍～60倍)を使用した。また、無線により調査地点間で連絡をとり合い、複数地点からの同時確認に努めた。重要種が確認された場合は、確認時間や飛翔軌跡、主な行動、個体の特徴等を記録した。

定点観察・移動観察(猛禽類以外対象)は、調査地において、散策路等で定点観察および移動観察をおこない、双眼鏡等を用いて周辺に出現した鳥類を記録した。また、補足的に、データロガー型ICレコーダーを設置し、夜行性鳥類の鳴き声から、生息状況(生息種等)を確認した。設置期間は春季に1週間程度とした。重要種が確認された場合は、確認時間や飛翔軌跡、主な行動、個体の特徴等を記録した。

営巣木調査は、調査地を踏査し、重要種(クマゲラ、猛禽類等)の営巣木・営巣可能木等を確認した。これらが確認された場合は、樹種、樹高、胸高直径、巣の大きさ(長径×短径×厚さ、地上高)および周辺植生を記録するほか、環境保全措置実施の判断基準となる位置、利用種、営巣の痕跡等を確認・記録した。踏査中に重要種が確認された場合は記録をおこなった。

#### (3) 両生類調査

調査地を踏査し、個体の目視や捕獲、鳴き声等から生息種を確認した。重要種が確認された場合は、その位置と確認状況を記録した。

#### (4) 爬虫類調査

調査地を踏査し、個体の目視や捕獲、抜け殻等から生息種を確認した。

#### (5) 昆虫類調査

一般採集法は、調査地を踏査し、見つけ採り（飛翔個体や樹幹上の個体を目視や採集により確認）、スウィーピング（草むら等で捕虫網を左右に振り、その中に潜む昆虫類を採集）、ビーティング（枝葉を棒でたたき、落下した昆虫類を採集）等による任意確認をおこなった。

ライトトラップ法は、各調査地点において、夏季および秋季に、走光性の強い昆虫類を対象に、ブラックライトと蛍光灯を吊り下げた据置型ライトトラップを夜間に設置した。トラップは翌朝回収した。

ベイトトラップ法は、各調査地点において、夏季に、地表徘徊性の昆虫類を対象に、ベイトトラップ（誘引餌（30%希釈酢酸）を入れたプラスチック製コップを地中に埋め、誘引され落下した昆虫類を採集した。トラップは20個を5日間程度設置した。トラップは調査終了後回収した。

#### (6) 底生動物調査

調査地を踏査し、目視や捕獲によりニホンザリガニを確認した。捕獲した個体は雌雄と頭胸甲長を記録した後、速やかに放流した。

#### 5.6.4 調査地

##### (1) 哺乳類調査

哺乳類調査は、図 5.6-1 に示すとおり、事業実施区域からおよそ 250m の範囲とした。

赤外線自動撮影カメラは、冬季は事業実施区域およびその周辺の 2 地点 (No. 1、No. 2) に、春季～秋季は 3 地点 (No. 1、No. 3、No. 4) に設置した。データロガー型バットディテクターは 1 地点 (No. 1) に設置した。

##### (2) 鳥類調査

猛禽類調査(定点観察)は、図 5.6-2 に示すとおり、大倉山ジャンプ競技場およびその周辺が見渡せる調査地点を設定し、猛禽類の出現状況に応じてこれらの地点を移動した。

ラインセンサス調査および営巣木調査は、図 5.6-3 に示すとおり、事業実施区域からおよそ 250m の範囲とした。また、データロガー型 IC レコーダーは 1 地点に設置した。

##### (3) 両生類調査

両生類調査は、図 5.6-4 に示すとおり、事業実施区域からおよそ 250m の範囲とした。

##### (4) 爬虫類調査

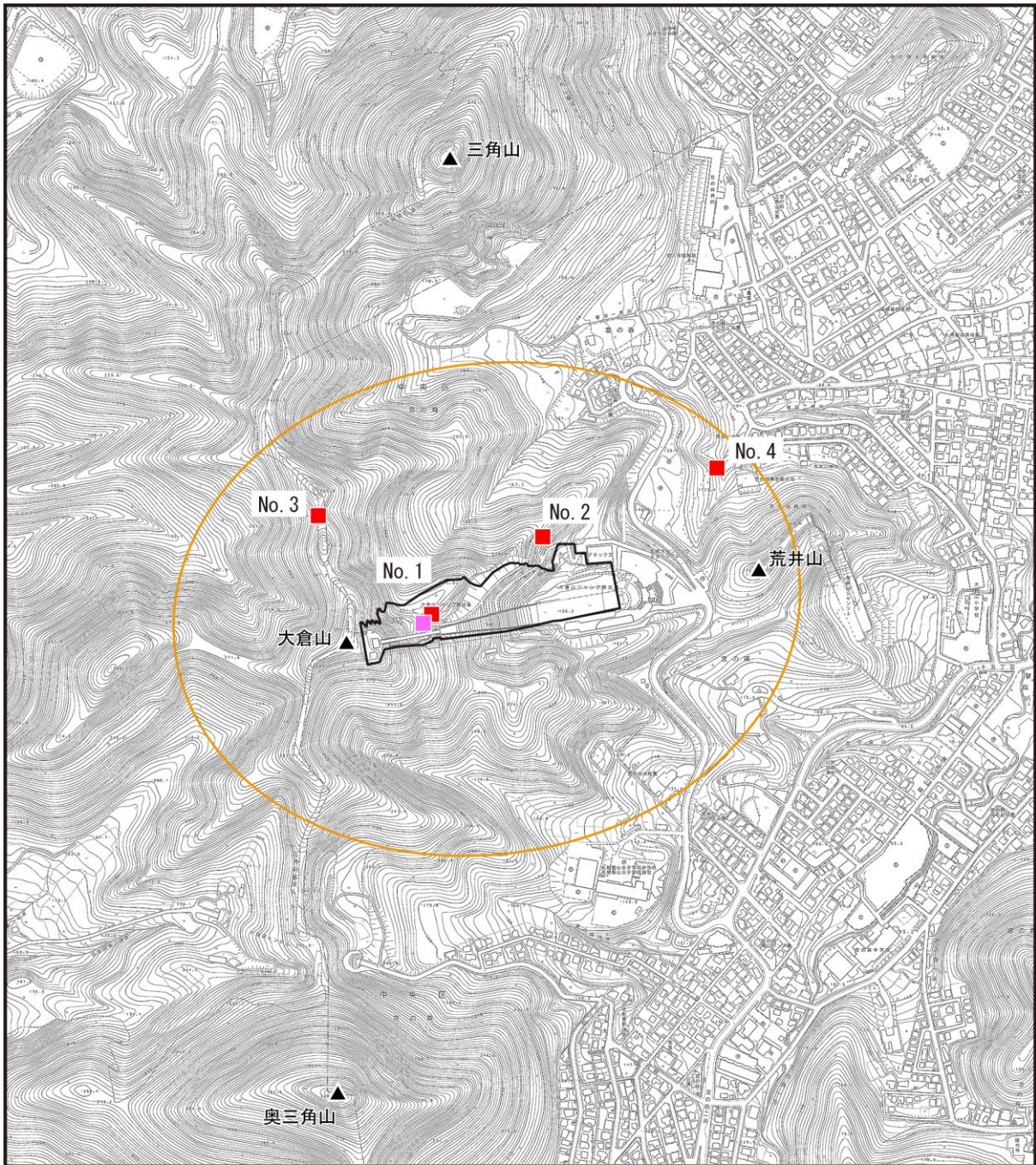
爬虫類調査は、図 5.6-4 に示すとおり、事業実施区域からおよそ 250m の範囲とした。

##### (5) 昆虫類調査




昆虫類調査は、図 5.6-5 に示すとおり、事業実施区域からおよそ 250m の範囲とした。また、ライトトラップおよびベイトトラップは事業実施区域およびその周辺の 3 地点に設置した。

##### (6) 底生動物調査

底生動物調査は、図 5.6-4 に示すとおり、事業実施区域からおよそ 250m の範囲とした。



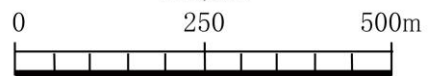
凡 例

-  哺乳類調査地  
(事業実施区域から 250m 程度の範囲)
-  赤外線自動撮影カメラ設置地点
-  データロガー型バットディテクター設置地点

 事業実施区域

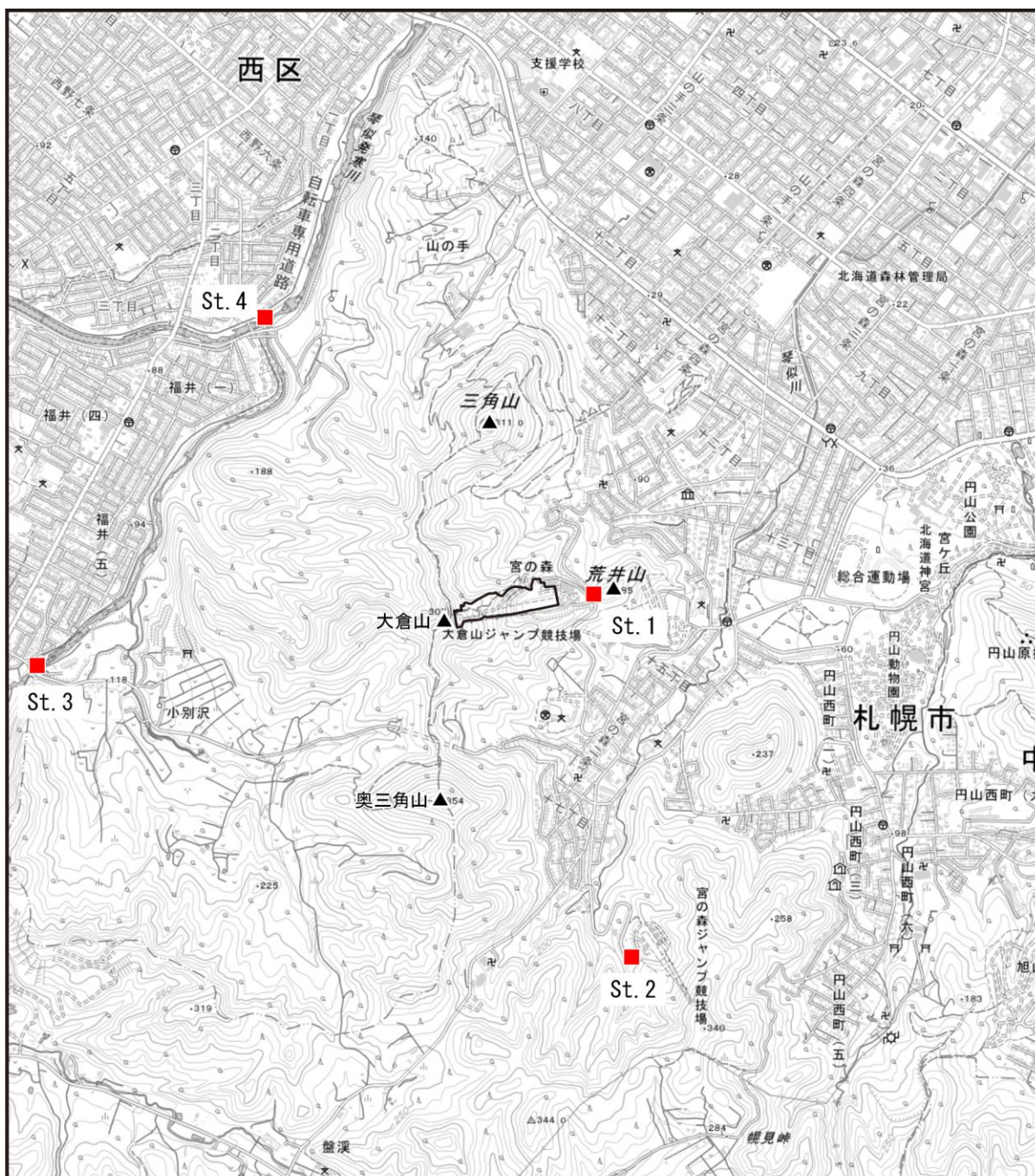


1:10,000



※この地図は、札幌市発行の現況図 (1/2,500) を使用したものです。

図 5.6-1 哺乳類調査地位置図



凡例

- 鳥類（猛禽類）調査地点（St. 1～4）  
 ※St. 1は固定、St. 2～4は猛禽類の出現状況に応じて適宜変更（移動定点）

 事業実施区域

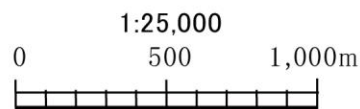
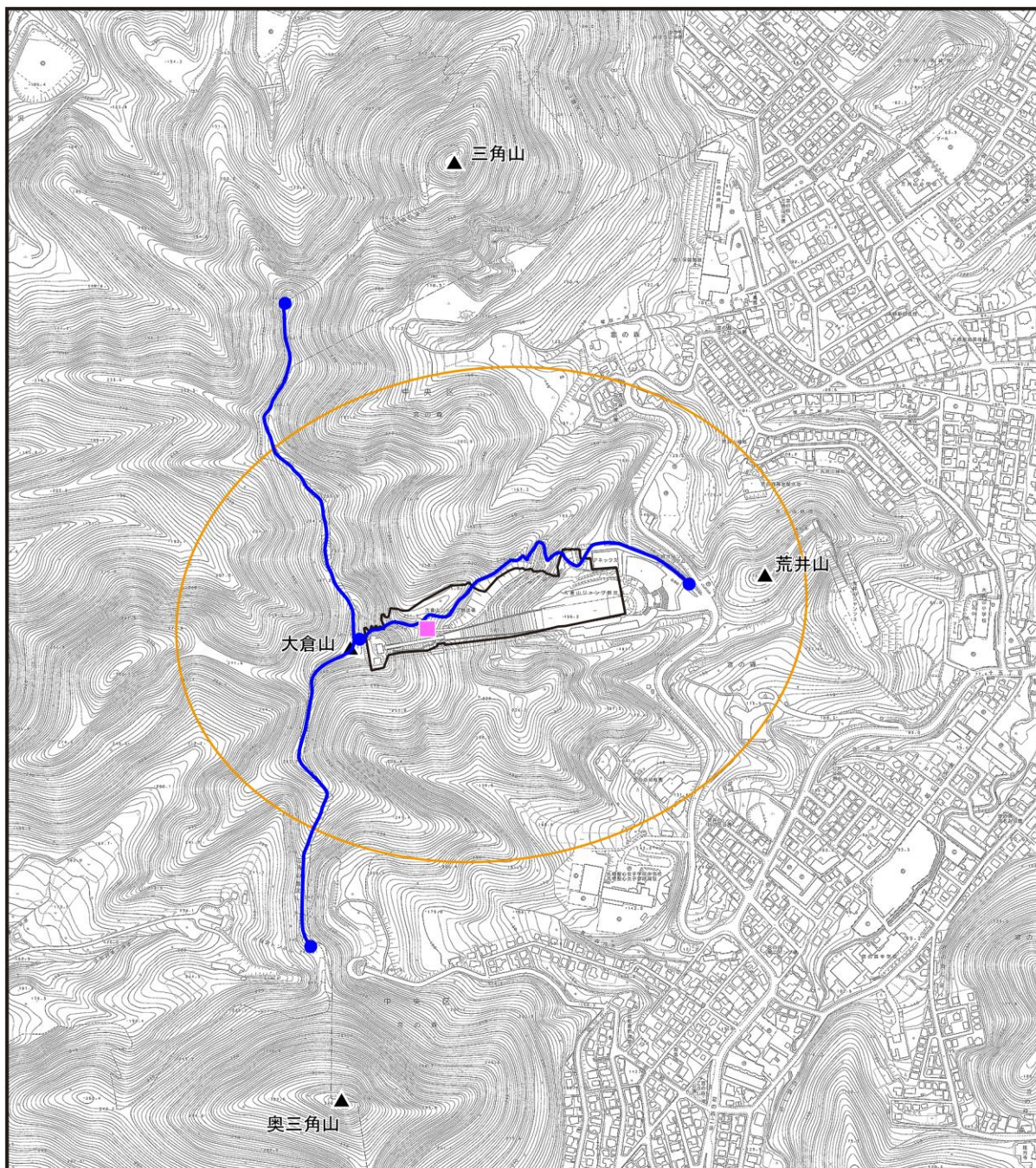





図 5.6-2 鳥類（猛禽類）調査地位置図



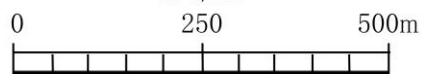
凡 例

-  鳥類調査地  
(事業実施区域から 250m 程度の範囲)
-  ラインセンサ調査ルート
-  データロガー型 IC レコーダー設置地点

 事業実施区域

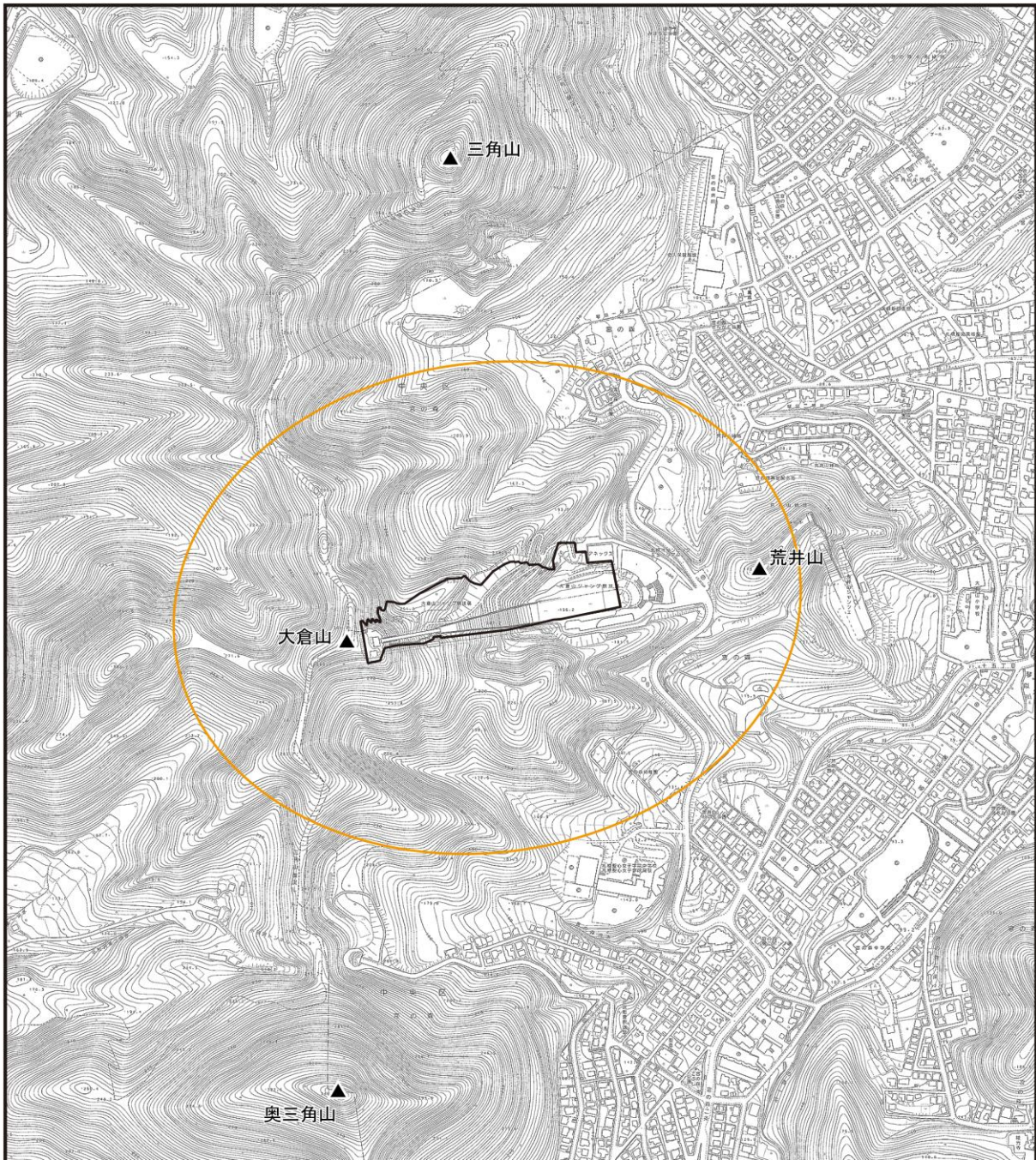


1:10,000




※この地図は、札幌市発行の現況図 (1/2,500) を使用したものです。

図 5.6-3 鳥類(猛禽類以外)調査地位置図



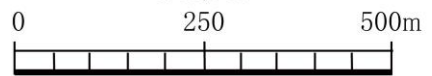
凡 例

 両生類・爬虫類・底生動物調査地  
(事業実施区域から 250m 程度の範囲)

 事業実施区域

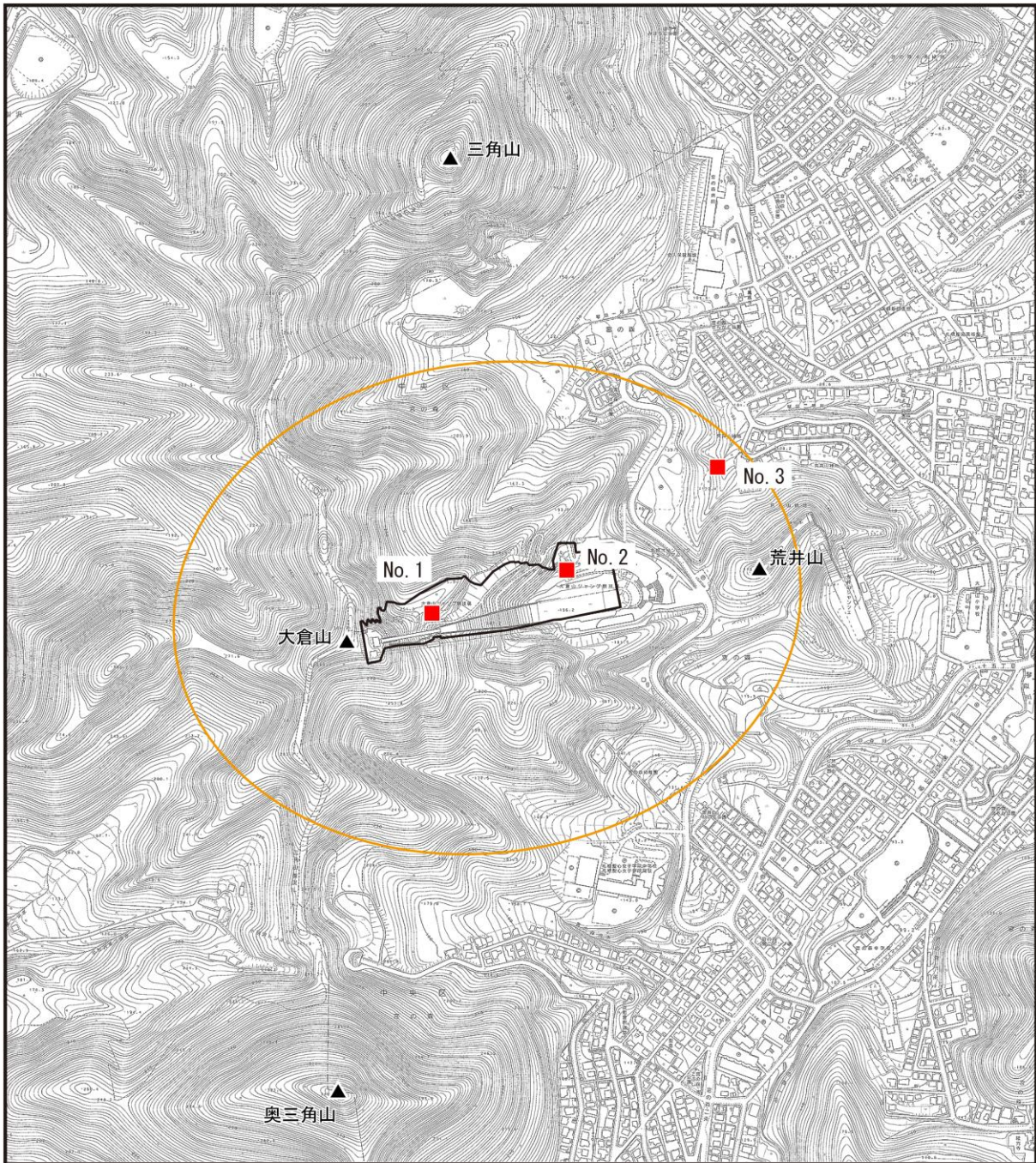


1:10,000





※この地図は、札幌市発行の現況図 (1/2,500) を使用したものです。

図 5.6-4 両生類・爬虫類・底生動物調査地位置図



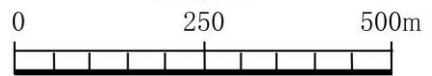
凡 例

-  昆虫類調査地  
(事業実施区域から 250m 程度の範囲)
-  ライトトラップ・ベイトトラップ設置地点

 事業実施区域



1:10,000



※この地図は、札幌市発行の現況図 (1/2,500) を使用したものです。

図 5.6-5 昆虫類調査地位置図

## 5.6.5 調査結果

### (1) 哺乳類調査

#### 1) 確認種および確認状況

現地調査の結果、表 5.6-3 に示す 4 目 10 科 13 種の哺乳類が確認された。

表 5.6-3 哺乳類確認種一覧

目名	科名	種名	学名
コウモリ	キクガシラコウモリ	キクガシラコウモリ	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>
	—	コウモリ目①	CHIROPTERA sp.①
	—	コウモリ目②	CHIROPTERA sp.②
ネズミ	リス	キタリス(エゾリス)	<i>Sciurus vulgaris</i>
		タイリクモモンガ(エゾモモンガ)	<i>Pteromys volans</i>
	ネズミ	アカネズミ(エゾアカネズミ)	<i>Apodemus speciosus</i>
		ネズミ科	Muridae sp.
ネコ	クマ	ヒグマ(エゾヒグマ)	<i>Ursus arctos</i>
	アライグマ	アライグマ	<i>Procyon lotor</i>
	イヌ	タヌキ(エゾタヌキ)	<i>Nyctereutes procyonoides</i>
		キツネ(キタキツネ)	<i>Vulpes vulpes</i>
	イタチ	テン(ホンドテン)	<i>Martes melampus</i>
		イタチ	<i>Mustela itatsi</i>
		イタチ科	Mustelidae sp.
ウシ	シカ	ニホンジカ(エゾシカ)	<i>Cervus nippon</i>
4 目	10 科	13 種	

※種名、学名および種の配列は「日本産野生生物目録 脊椎動物編」(平成 5 年 環境庁)を基に、公表されている最新の知見に準拠した。

※種名に付した()内の名称は亜種名。

※コウモリ目は、鳴き声の周波数から下記のとおりに分類した。

15kHz~30kHz…コウモリ目①(ヤマコウモリ、コヤマコウモリ、キタクビワコウモリ、ヒメヒナコウモリ、ヒナコウモリ、オヒキコウモリ)

30kHz~50kHz…コウモリ目②(ヒメホオヒゲコウモリ、ウスリホオヒゲコウモリ、カグヤコウモリ、モモジロコウモリ、ドーベントンコウモリ、ノレンコウモリ、アブラコウモリ、クロオオアブラコウモリ、チチブコウモリ、ニホンウサギコウモリ、コテングコウモリ、テングコウモリ)

65kHz~70kHz…キクガシラコウモリ

105kHz 前後 …コキクガシラコウモリ

※ネズミ科は、アカネズミである可能性が考えられるため、ここでは種数に計上していない。

※イタチ科は、テン、イタチ、ミンク、イイズナであると考えられるため、ここでは種数に計上していない。

※■は重要種、■は外来種を示す。

## 2) 重要種

哺乳類確認種のうち、環境省レッドリスト等で選定されている重要種としては表 5.6-4 に示すコウモリ類とヒグマ(エゾヒグマ)が該当する。コウモリ類は、鳴き声のみでは種を判別することができないため、ここでは確認種に含まれる可能性があるものを全て挙げた。これらの確認位置は図 5.6-6 に示すとおりである。

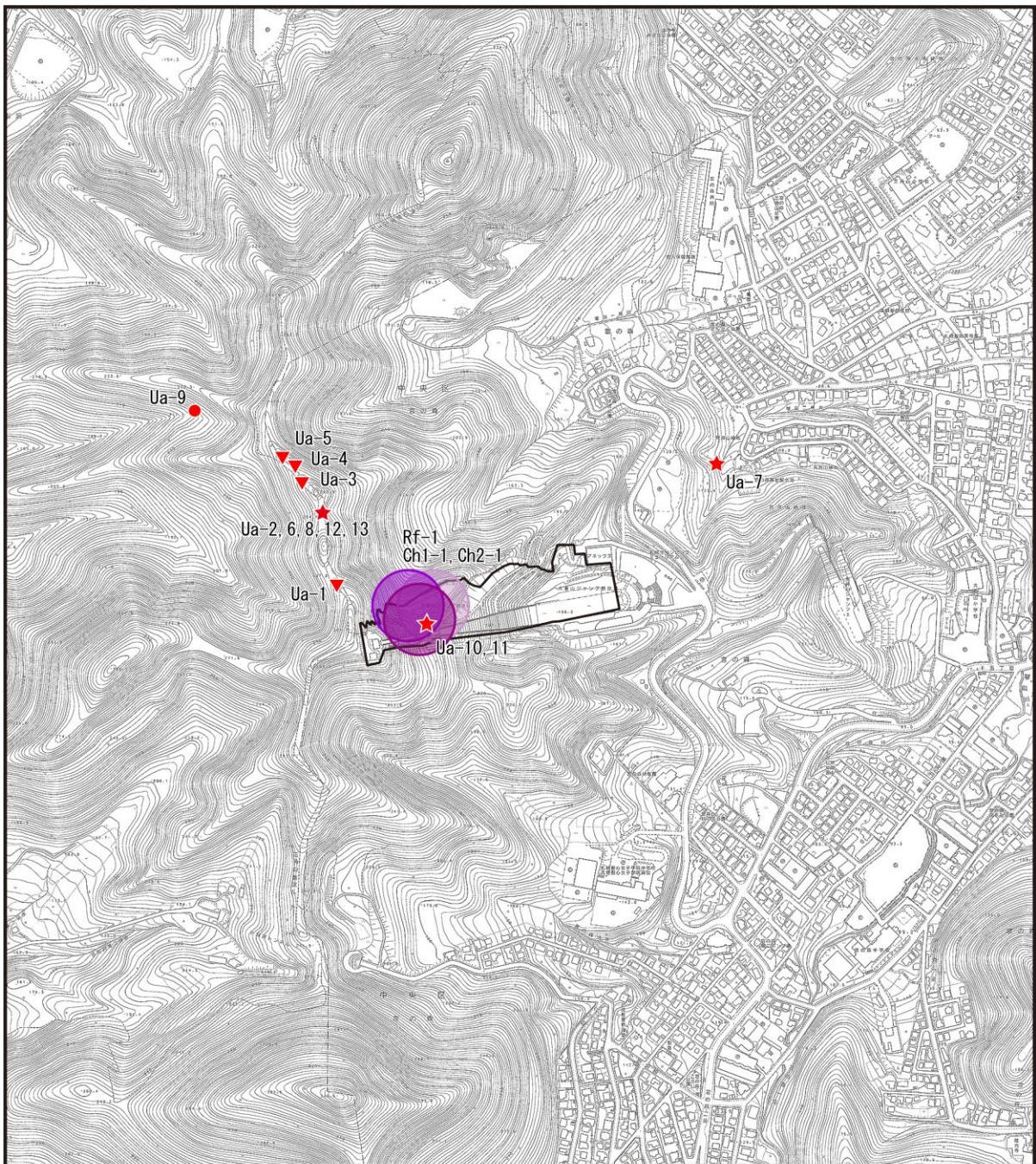
表 5.6-4 哺乳類重要種一覧

科名	種名	重要種選定基準						
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
キクガシラコウモリ	キクガシラコウモリ							DD
ヒナコウモリ	(ヒメホオヒゲコウモリ)						Nt	
	(ウスリホオヒゲコウモリ)					VU	Nt	
	(カグヤコウモリ)						Nt	
	(ドーベントンコウモリ)						N	
	(クロオオアブラコウモリ)					DD	Nt	DD
	(ヤマコウモリ)					VU	Nt	VU
	(コヤマコウモリ)					EN		
	(キタクビワコウモリ)							DD
	(ヒメヒナコウモリ)					DD	Nt	
	(ヒナコウモリ)						Nt	
	(チチブコウモリ)						Nt	DD
	(ニホンウサギコウモリ)						Nt	DD
	(コテングコウモリ)						N	
	(テングコウモリ)						Nt	N
オヒキコウモリ	(オヒキコウモリ)					VU	Dd	
クマ	ヒグマ					LP	Lp	NT
4 科	17 種	なし	なし	なし	なし	7 種	14 種	8 種

※鳴き声のみの確認で種が特定できず、確認種に含まれる可能性のあるものは種名に()を付した。

※重要種選定基準および各基準の指定ランクの略記号の説明は以下のとおりである。

- ① 「文化財保護法」(昭和 25 年 法律第 214 号)
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 法律第 75 号)
- ③ 「北海道文化財保護条例」(昭和 30 年 北海道条例第 83 号)
- ④ 「北海道生物の多様性の保全等に関する条例」(平成 25 年 北海道条例第 9 号)
- ⑤ 「環境省レッドリスト 2020」(令和 2 年環境省)  
EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR:絶滅危惧 I A 類、EN:絶滅危惧 I B 類、  
VU:絶滅危惧 II 類、NT:準絶滅危惧、LP:絶滅のおそれのある地域個体群、DD:情報不足
- ⑥ 「北海道レッドリスト(哺乳類編)改訂版」(平成 28 年 北海道)  
Ex:絶滅、Ew:野生絶滅種、Cr:絶滅危惧 I A 類、En:絶滅危惧 I B 類、  
Vu:絶滅危惧 II 類、Nt:準絶滅危惧、N:留意、Lp:絶滅のおそれのある地域個体群、  
Dd:情報不足
- ⑦ 「札幌市版レッドリスト 2016」(平成 28 年 札幌市)  
EX+EW:今見られない、CR:絶滅危惧 I A 類、EN:絶滅危惧 I B 類、  
VU:絶滅危惧 II 類、NT:準絶滅危惧、N:留意種、  
DD:情報不足



凡 例

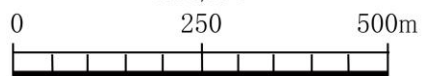
- キクガシラコウモリ (Rf)
- コウモリ目 A (Ch1)
- コウモリ目 B (Ch2)
- ヒグマ (Ua)

- |      |      |       |
|------|------|-------|
| ● 目撃 | ▲ 糞  | ★ カメラ |
| ■ 足跡 | ▼ 食痕 | ○ 鳴き声 |

□ 事業実施区域



1:10,000



※この地図は、札幌市発行の現況図 (1/2,500) を使用したものです。

図 5.6-6 哺乳類重要種確認位置図

### 3) 外来種

哺乳類確認種のうち、外来生物法や北海道ブルーリスト等で選定されている外来種としては、表 5.6-5 に示す 3 種が該当する。いずれも侵略性の高い種となっている。

表 5.6-5 哺乳類外来種一覧

科名	種名	外来種選定基準			
		①	②	③	④
アライグマ	アライグマ	特定・緊急		緊急	外 A1
イタチ	テン	重点(内)		緊急	内 A2
	イタチ	重点(内)		緊急	内 A2
2 科	3 種	3 種	なし	3 種	3 種

※外来種選定基準および各基準の指定ランクの略記号の説明は以下のとおりである。

- ①「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(外来生物法)」  
(平成 16 年 法律第 78 号)  
 特定：特定外来生物 …海外起源の生物であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、または被害を及ぼすおそれがあるもの。  
 未判定：未判定外来生物 …特定外来生物とは別に生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼす疑いがあるか、実態がよく分かっていない海外起源のもの。
- ②「北海道生物の多様性の保全等に関する条例」(平成 25 年 北海道条例第 9 号)  
 指定：指定外来種 …本来道内に生息・生育していない動植物のうち、国外または国内から道内に持ち込まれ、道内の生物多様性に著しい影響を及ぼす、または及ぼすおそれがあるもの
- ③「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」(平成 27 年 環境省・農林水産省)  
 緊急：緊急対策外来種 …対策の緊急性が高く、特に各主体がそれぞれの役割において、積極的に防除を行う必要があるもの。  
 重点：重点対策外来種 …甚大な被害が予想されるため、特に各主体のそれぞれの役割における対策の必要性が高いもの。  
 他対策：その他総合対策外来種  
 侵入予防：侵入予防外来種 …国内未侵入の種。特に導入の予防、水際での監視、バラスト水対策等で国内への侵入を未然に防ぐ必要があるもの。  
 定着予防：定着予防外来種 …侵入の情報はあがるが、定着は確認されていない種。  
 産業管理：産業管理外来種 …産業または公益的役割において重要で、代替性がなく、その利用にあたっては適切な管理をおこなうことが必要な外来種。
- ④「北海道の外来種リストー北海道ブルーリスト 2010ー」(平成 22 年 北海道)  
 国外：国外外来種  
 国内：国内外来種  
 A1：緊急に防除対策が必要な外来種。  
 A2：本道への生態系への大きな影響を及ぼしており、防除対策の必要性について検討する外来種。  
 A3：本道に定着しており、生態系への影響が報告または懸念されている外来種。  
 B：北海道に人為的に導入され、定着しているが、影響等は報告されていないもの。  
 C：北海道に人為的に導入され、定着することは可能であるが、定着しているかどうかは不明なもの。影響等は報告されている。  
 D：北海道に人為的に導入され、定着することは可能であるが、定着しているかどうかは不明なもの。影響等は報告されていない。  
 E：北海道に人為的に導入され、定着することは可能であるが、定着はしていないもの。しかし、影響等は報告されている。  
 h：北海道に人為的に導入されている可能性が高く、導入されると定着し影響が懸念される等注意が必要なもの。

## (2) 鳥類調査

## 1) 確認種および確認状況

現地調査の結果、表 5.6-6 に示すとおり、11 目 26 科 56 種の鳥類が確認された。

表 5.6-6 鳥類確認種一覧

(1/2)

目名	科名	種名	学名
カモ	カモ	マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>
ハト	ハト	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>
		アオバト	<i>Treron sieboldii</i>
ペリカン	サギ	アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>
カッコウ	カッコウ	ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>
ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>
アマツバメ	アマツバメ	ハリオアマツバメ	<i>Hirundapus caudacutus</i>
チドリ	シギ	ヤマシギ	<i>Scolopax rusticola</i>
	カモメ	オオセグロカモメ	<i>Larus schistisagus</i>
タカ	タカ	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>
		トビ	<i>Milvus migrans</i>
		ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>
		オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>
		ノスリ	<i>Buteo buteo</i>
フクロウ	フクロウ	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>
キツツキ	キツツキ	コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>
		オオアカゲラ	<i>Dendrocopos leucotos</i>
		アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>
		クマゲラ	<i>Dryocopus martius</i>
		ヤマゲラ	<i>Picus canus</i>
ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>
スズメ	モズ	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>
	カラス	ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>
		ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>
	シジュウカラ	ハシブトガラ	<i>Poecile palustris</i>
		ヤマガラ	<i>Poecile varius</i>
		ヒガラ	<i>Periparus ater</i>
		シジュウカラ	<i>Parus minor</i>
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>
	ウグイス	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>
		ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>
	エナガ	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>
	ムシクイ	オオムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>
		エゾムシクイ	<i>Phylloscopus borealoides</i>
		センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>
	メジロ	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>
	ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>
	ムクドリ	コムクドリ	<i>Agropsar philippensis</i>
	ヒタキ	トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>
		クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>
		アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>
		ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>
		コルリ	<i>Luscinia cyane</i>
		キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>
		オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>
		スズメ	ニュウナイスズメ
	スズメ	スズメ	<i>Passer montanus</i>

表 5.6-6 鳥類確認種一覧

(2/2)

目名	科名	種名	学名
スズメ	セキレイ	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>
		ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>
	アトリ	カワラヒワ	<i>Chloris sinica</i>
		ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>
		ウソ	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>
		シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>
		イカル	<i>Eophona personata</i>
	ホオジロ	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>
		アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>
11 目	26 科	56 種	

※種名、学名および種の配列は「日本鳥類目録 改訂第7版」(平成24年 日本鳥学会)に準拠した。

※ ■ は重要種、 ■ は外来種を示す。

## 2) 重要種

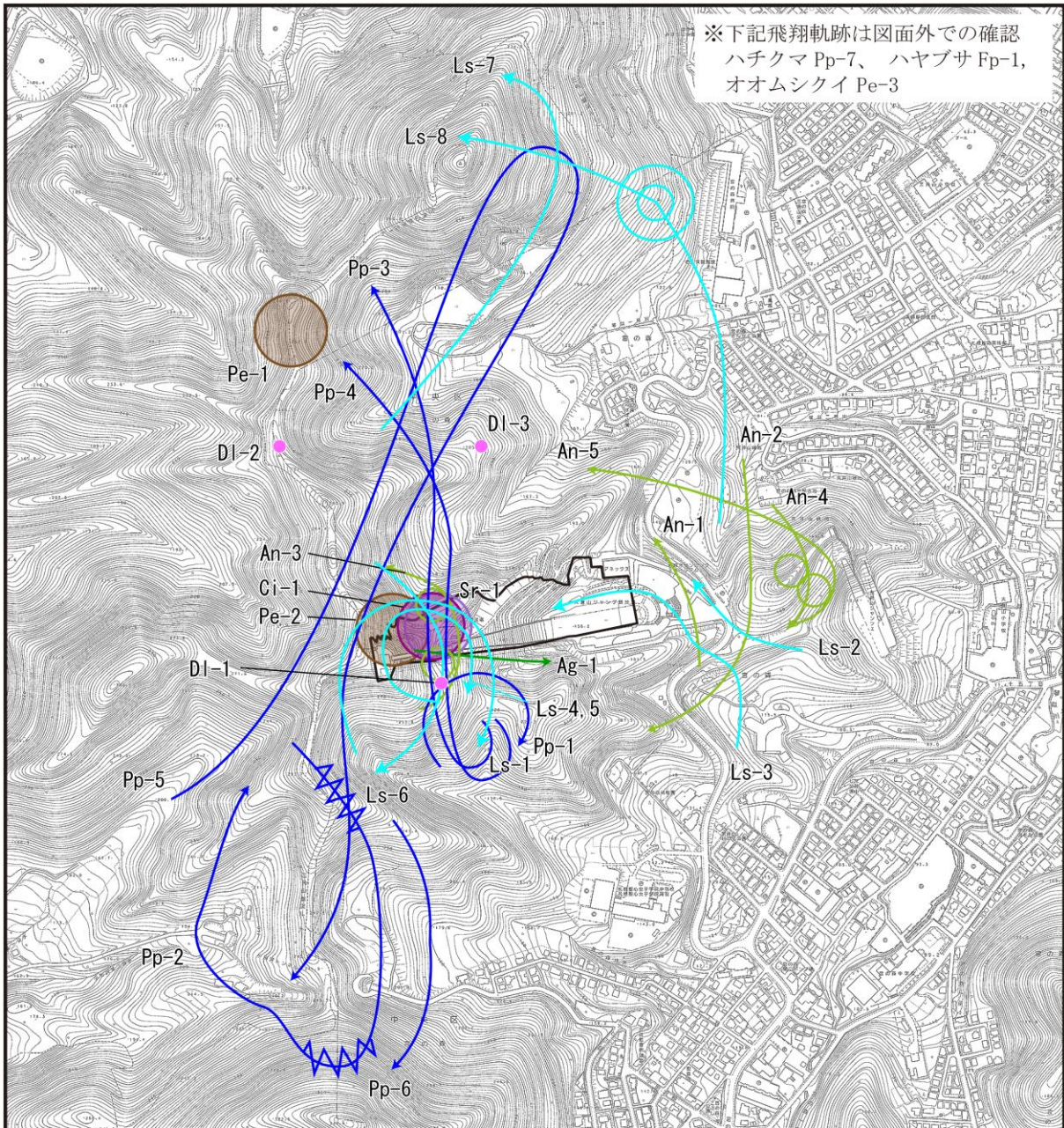
鳥類確認種のうち、環境省レッドリスト等で選定されている重要種としては、表 5.6-7 に示す 10 種が該当する。これら重要種の確認位置は図 5.6-7 に示すとおりである。

表 5.6-7 鳥類重要種一覧

科名	種名	重要種選定基準						
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
ヨタカ	ヨタカ					NT	Nt	NT
シギ	ヤマシギ						N	DD
カモメ	オオセグロカモメ					NT	Nt	
タカ	ハチクマ					NT	Nt	NT
	ハイタカ					NT	Nt	NT
	オオタカ					NT	Nt	
キツツキ	オオアカゲラ						Dd	N
	クマゲラ	天然				VU	Vu	Vu
ハヤブサ	ハヤブサ		国内			VU	Vu	
ムシクイ	オオムシクイ					DD		
7 科	10 種	1 種	1 種	なし	なし	8 種	9 種	6 種

※重要種選定基準および各基準の指定ランクの略記号の説明は以下のとおりである。

- ① 「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)  
天然：天然記念物、 特天：特別天然記念物、
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年 法律第75号)  
国内：国内希少野生動植物種、 特国：特定国内希少野生動植物種、 緊急：緊急指定種
- ③ 「北海道文化財保護条例」(昭和30年 北海道条例第83号)
- ④ 「北海道生物の多様性の保全等に関する条例」(平成25年 北海道条例第9号)
- ⑤ 「環境省レッドリスト2020」(令和2年環境省)  
EX：絶滅、 EW：野生絶滅、 CR：絶滅危惧ⅠA類、 EN：絶滅危惧ⅠB類、  
VU：絶滅危惧Ⅱ類、 NT：準絶滅危惧、 LP：絶滅のおそれのある地域個体群、  
DD：情報不足
- ⑥ 「北海道レッドリスト(鳥類編)改訂版」(平成29年 北海道)  
Ex：絶滅、 Ew：野生絶滅種、 Cr：絶滅危惧ⅠA類、 En：絶滅危惧ⅠB類、  
Vu：絶滅危惧Ⅱ類、 Nt：準絶滅危惧、 N：留意、 Lp：絶滅のおそれのある地域個体群、  
Dd：情報不足
- ⑦ 「札幌市版レッドリスト2016」(平成28年 札幌市)  
EX+EW：今見られない、 CR：絶滅危惧ⅠA類、 EN：絶滅危惧ⅠB類、  
VU：絶滅危惧Ⅱ類、 NT：準絶滅危惧、 N：留意種  
DD：情報不足



※重要種保護の観点から、希少性の高い種については確認位置を記載しないこととした。

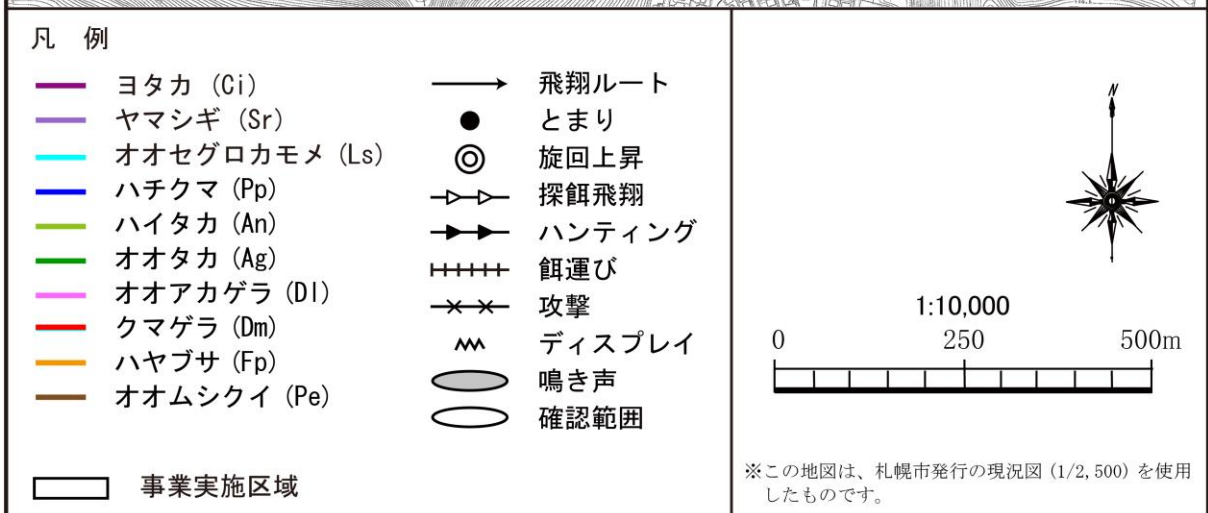


図 5.6-7 鳥類重要種確認位置図

### 3) 外来種

鳥類確認種のうち、外来生物法や北海道ブルーリスト等で選定されている外来種は確認されなかった。

### (3) 両生類調査

#### 1) 確認種および確認状況

現地調査の結果、表 5.6-8 に示す 2 目 2 科 2 種の両生類が確認された。

表 5.6-8 両生類確認種一覧

目名	科名	種名	学名
有尾	サンショウウオ	エゾサンショウウオ	<i>Hynobius retardatus</i>
無尾	アカガエル	エゾアカガエル	<i>Rana pirica</i>
2 目	2 科	2 種	

※種名、学名および種の配列は「日本産爬虫両生類標準和名リスト(2024年3月11日版)」(令和6年 日本爬虫両棲類学会)に準拠した。

※ ■ は重要種、 ■ は外来種を示す。

#### 2) 重要種

両生類確認種のうち、環境省レッドリスト等で選定されている重要種としては表 5.6-9 に示すエゾサンショウウオが該当する。本種の確認位置は図 5.6-8 に示すとおりである。

表 5.6-9 両生類重要種一覧

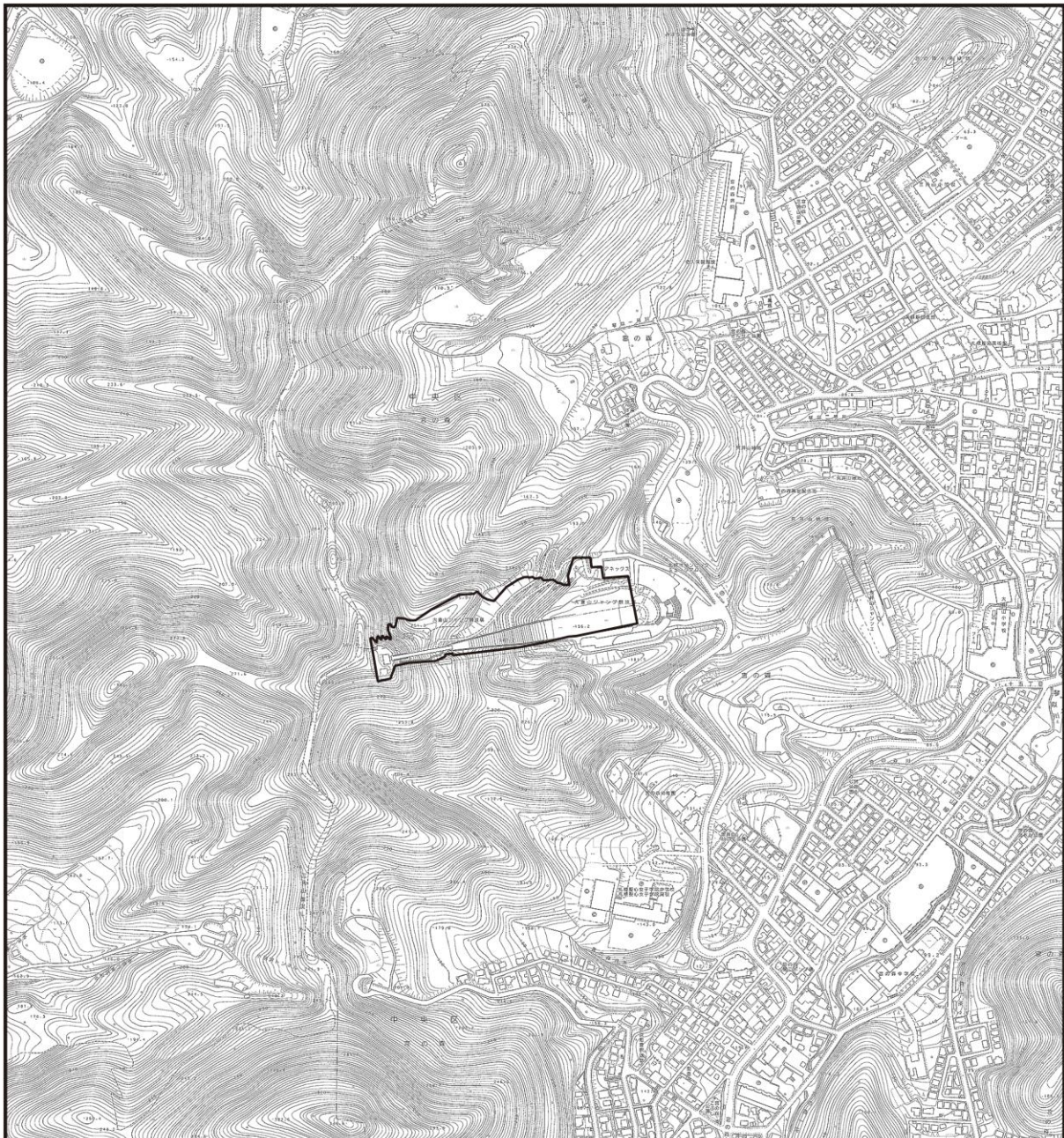
科名	種名	重要種選定基準						
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
サンショウウオ	エゾサンショウウオ					DD	Lp	NT
1 科	1 種	なし	なし	なし	なし	1 種	1 種	1 種

※重要種選定基準および各基準の指定ランクの略記号の説明は以下のとおりである。

- ① 「文化財保護法」(昭和 25 年 法律第 214 号)
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 法律第 75 号)
- ③ 「北海道文化財保護条例」(昭和 30 年 北海道条例第 83 号)
- ④ 「北海道生物の多様性の保全等に関する条例」(平成 25 年 北海道条例第 9 号)
- ⑤ 「環境省レッドリスト 2020」(令和 2 年環境省)
  - EX:絶滅、 EW:野生絶滅、 CR:絶滅危惧 I A 類、 EN:絶滅危惧 I B 類、
  - VU:絶滅危惧 II 類、 NT:準絶滅危惧、 LP:絶滅のおそれのある地域個体群、
  - DD:情報不足
- ⑥ 「北海道レッドリスト(哺乳類編)改訂版」(平成 28 年 北海道)
  - Ex:絶滅、 Ew:野生絶滅種、 Cr:絶滅危惧 I A 類、 En:絶滅危惧 I B 類、
  - Vu:絶滅危惧 II 類、 Nt:準絶滅危惧、 N:留意、 Lp:絶滅のおそれのある地域個体群、
  - Dd:情報不足
- ⑦ 「札幌市版レッドリスト 2016」(平成 28 年 札幌市)
  - EX+EW:今見られない、 CR:絶滅危惧 I A 類、 EN:絶滅危惧 I B 類、
  - VU:絶滅危惧 II 類、 NT:準絶滅危惧、 N:留意種、
  - DD:情報不足

#### 3) 外来種

両生類確認種のうち、外来生物法や北海道ブルーリスト等で選定されている外来種は確認されなかった。



※重要種保護の観点から、希少性の高い種については確認位置を記載しないこととした。

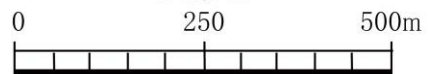
凡 例

● エゾサンショウウオ (Hr)

▭ 事業実施区域



1:10,000



※この地図は、札幌市発行の現況図 (1/2,500) を使用したものです。

図 5.6-8 両生類重要種確認位置図

#### (4) 爬虫類調査

##### 1) 確認種および確認状況

現地調査の結果、表 5.6-10 に示す 1 目 4 科 5 種の爬虫類が確認された。

表 5.6-10 爬虫類確認種一覧

目名	科名	種名	学名
有鱗	トカゲ	ヒガシニホントカゲ	<i>Plestiodon finitimus</i>
	カナヘビ	ニホンカナヘビ	<i>Takydromus tachydromoides</i>
	ナミヘビ	アオダイショウ	<i>Elaphe climacophora</i>
		シマヘビ	<i>Elaphe quadrivirgata</i>
クサリヘビ	ニホンマムシ	<i>Gloydius blomhoffii</i>	
1 目	4 科	5 種	

※種名、学名および種の配列は「日本産爬虫両生類標準和名リスト(2024年3月11日版)」(令和6年 日本爬虫両棲類学会)に準拠した。

※ ■ は重要種、■ は外来種を示す。

##### 2) 重要種

爬虫類確認種のうち、環境省レッドリスト等で選定されている重要種は確認されなかった。

##### 3) 外来種

爬虫類確認種のうち、外来生物法や北海道ブルーリスト等で選定されている外来種は確認されなかった。

## (5) 昆虫類調査

## 1) 確認種および確認状況

現地調査の結果、表 5.6-11 に示す 16 目 193 科 860 種の昆虫類が確認された。

表 5.6-11 昆虫類確認種一覧

(1/17)

目名	科名	種名	学名
カゲロウ	モンカゲロウ	フタスジモンカゲロウ	<i>Ephemera japonica</i>
トンボ	ヤンマ	ルリボシヤンマ	<i>Aeschna juncea</i>
	オニヤンマ	オニヤンマ	<i>Anotogaster sieboldii</i>
	エゾトンボ	タカネトンボ	<i>Somatochlora uchidai</i>
	トンボ	ナツアカネ	<i>Sympetrum darwinianum</i>
		アキアカネ	<i>Sympetrum frequens</i>
		ノシメトンボ	<i>Sympetrum infuscatum</i>
ウスバキトンボ		<i>Pantala flavescens</i>	
カワゲラ	オナシカワゲラ	オナシカワゲラ	<i>Nemoura fulva</i>
	ミドリカワゲラ	Sweltsa 属	<i>Sweltsa</i> sp.
ハサミムシ	ハサミムシ	ハマベハサミムシ	<i>Anisolabis maritima</i>
	クギヌキハサミムシ	エゾハサミムシ	<i>Eparchus yezoensis</i>
		コブハサミムシ	<i>Anechura harmandi</i>
		キバネハサミムシ	<i>Forficula mikado</i>
		クギヌキハサミムシ	<i>Forficula scudderi</i>
ハッタ	コオロギ	カンタン	<i>Oecanthus longicauda</i>
		シバズ	<i>Pteronemobius mikado</i>
	カマトウマ	マダラカマドウマ	<i>Diestrammena japonica</i>
		エゾモリズミウマ	<i>Diestrammena brunneri</i>
	キリギリス	ハネナガキリギリス	<i>Gampsocleis ussuriensis</i>
		コバネヒメギス	<i>Chizuella bonneti</i>
		ヒメクサキリ	<i>Ruspolia dubia</i>
		コバネササキリモドキ	<i>Cosmetura fenestrata</i>
	ツユムシ	ツユムシ	<i>Phaneroptera falcata</i>
		エゾツユムシ	<i>Kuwayamaea sapporensis</i>
	ヒシハッタ	ハラヒシバッタ	<i>Tetrix japonica</i>
	ハッタ	サッポロフキバッタ	<i>Podisma sapporensis</i>
		ハネナガフキバッタ	<i>Ognevia longipennis</i>
		ミカドフキバッタ	<i>Parapodisma mikado</i>
		イナゴモドキ	<i>Mecostethus parapleurus</i>
		トノサマバッタ	<i>Locusta migratoria</i>
		ヒナバッタ	<i>Glyptobothrus maritimus maritimus</i>
カシリムシ	ケブカチャタテ	ウスベニチャタテ	<i>Amphipsocus japonicus</i>
	ハグルマチャタテ	ハグルマチャタテ	<i>Matsumuraiella radiopicta</i>
カメムシ	キシラミ	グミキシラミ	<i>Cacopsylla elaeagni</i>
	ゼミ	コエゾゼミ	<i>Auritibicen bihamatus</i>
		アブラゼミ	<i>Graptopsaltria nigrofuscata</i>
		ツクツクボウシ	<i>Meimuna opalifera</i>
		エゾハルゼミ	<i>Terpnosia nigricosta</i>
		ミンミンゼミ	<i>Hyalessa maculaticollis</i>
	コガシラアワフキ	コガシラアワフキ	<i>Eoscarta assimilis</i>
	アワフキムシ	イシダアワフキ	<i>Aphrophora ishidae</i>
		モンキアワフキ	<i>Aphrophora major</i>
		ハマベアワフキ	<i>Aphrophora maritima</i>
		ヒメモンキアワフキ	<i>Aphrophora rugosa</i>
		ホシアワフキ	<i>Aphrophora stictica</i>
		クロスジアワフキ	<i>Aphrophora vittata</i>
		マルアワフキ	<i>Lepyronia coleoptrata</i>
ミヤマアワフキ		<i>Peuceptyelus nigroscutellatus</i>	

表 5.6-11 昆虫類確認種一覧

(2/17)

目名	科名	種名	学名
カメムシ	ツノゼミ	ツノゼミ	<i>Butragulus flavipes</i>
		モジツノゼミ	<i>Tsunozemia paradoxa</i>
	ヨコバイ	オヌキシダヨコバイ	<i>Onukigallia onukii</i>
		マエキヒロズヨコバイ	<i>Oncopsis burjatika</i>
		クルミヒロズヨコバイ	<i>Pediopsoidea kogotensis</i>
		カエデズキンヨコバイ	<i>Idiocerus ishiyamae</i>
		ミミズク	<i>Ledra auditura</i>
		オヌキヨコバイ	<i>Onukia onukii</i>
		フタテンオオヨコバイ	<i>Epiacanthus stramineus</i>
		ウスグロクワキヨコバイ	<i>Pagaronia aurantia</i>
		シロズオオヨコバイ	<i>Oniella honesta</i>
		アオズキンヨコバイ	<i>Batracomorphus mundus</i>
		クロサジヨコバイ	<i>Planaphrodes nigricans</i>
		カスリヨコバイ	<i>Balclutha punctata</i>
		ヒシモンヨコバイ	<i>Hishimonus sellatus</i>
		ブチミヤクヨコバイ	<i>Drabescus nigrifemoratus</i>
		Drabescus 属	<i>Drabescus</i> sp.
		ミドリヒロヨコバイ	<i>Laburrus similis</i>
		ヒトツメヨコバイ	<i>Phlogotettix cyclops</i>
		Psammotettix 属	<i>Psammotettix</i> sp.
		オオオナガトガリヨコバイ	<i>Doratulina grandis</i>
	イグチホシヨコバイ	<i>Xestocephalus iguchii</i>	
	ヒシウンカ	ヨモギヒシウンカ	<i>Oecleopsis artemisiae</i>
	ハネカ <sup>o</sup> ウンカ	マダラハネナガウンカ	<i>Pamendanga matsumurae</i>
		クワヤマハネナガウンカ	<i>Zoraida kuwayamae</i>
		アカフハネビロウンカ	<i>Robigus flexuosus</i>
	アメンボ <sup>o</sup>	アメンボ	<i>Aquarius paludum paludum</i>
	カスミカメムシ	ウスバホソカスミカメ	<i>Blepharidopterus ulmicola</i>
		チャイロホシチビカスミカメ	<i>Atractotomoidea castanea</i>
		ブチヒゲクロカスミカメ	<i>Adelphocoris triannulatus</i>
		フタモンアカカスミカメ	<i>Apolygus hilaris</i>
		カシワカスミカメ	<i>Castanopsides potanini</i>
		メンガタカスミカメ	<i>Eurystylus coelestialium</i>
		ハナアカカスミカメ	<i>Lygocorides rubronasutus</i>
		ムモンミドリカスミカメ	<i>Lygocoris idoneus</i>
		マキバカスミカメ	<i>Lygus rugulipennis</i>
		クルミミドリカスミカメ	<i>Neolygus juglandis</i>
		オオチャイロカスミカメ	<i>Orientalimiris tricolor</i>
		チャイロカスミカメ	<i>Philostephanus fulvus</i>
		アジアカクロカスミカメ	<i>Philostephanus rubripes</i>
		フタスジカスミカメ	<i>Stenotus binotatus</i>
		イネホソミドリカスミカメ	<i>Trigonotylus caelestialium</i>
	ハナカメムシ	ツヤヒメハナカメムシ	<i>Orius nagaii</i>
		ナミヒメハナカメムシ	<i>Orius sauteri</i>
	マキハ <sup>o</sup> サシガメ	ハラビロマキバサシガメ	<i>Himacerus apterus</i>
		エゾマキバサシガメ	<i>Nabis reuteri</i>
	サシガ <sup>o</sup> メ	ハネナシサシガメ	<i>Coranus dilatatus</i>
		モンシロサシガメ	<i>Rhynocoris leucospilus</i>
		クロモンサシガメ	<i>Peirates turpis</i>
	ヒラタカメムシ	ツヤヒメヒラタカメムシ	<i>Paraneurus nitidulus</i>
		アラゲオオヒラタカメムシ	<i>Mezira subsetosa</i>

表 5.6-11 昆虫類確認種一覧

(3/17)

目名	科名	種名	学名
カメムシ	ヒョウタンナガカメムシ	チャモンナガカメムシ	<i>Paradieuches dissimilis</i>
		チャイロナガカメムシ	<i>Neolethaeus dallasi</i>
		コバネヒョウタンナガカメムシ	<i>Togo hemipterus</i>
		シロヘリナガカメムシ	<i>Panaorus japonicus</i>
オオメナガカメムシ	クロツヤオオメナガカメムシ	クロツヤオオメナガカメムシ	<i>Geocoris itonis</i>
		ヒメオオメナガカメムシ	<i>Geocoris proteus</i>
コハネナガカメムシ	コバネナガカメムシ	コバネナガカメムシ	<i>Dimorphopterus pallipes</i>
		ホソコバネナガカメムシ	<i>Macropes obnubilus</i>
マダラナガカメムシ	ウスイロヒラタナガカメムシ	ウスイロヒラタナガカメムシ	<i>Kleidocerys resedae</i>
		マダラナガカメムシ	<i>Lygaeus equestris</i>
ホシカメムシ	フタモンホシカメムシ	フタモンホシカメムシ	<i>Pyrrhocoris sibiricus</i>
ホソヘリカメムシ	ヒメクモヘリカメムシ	ヒメクモヘリカメムシ	<i>Paraplesius unicolor</i>
		ホソヘリカメムシ	<i>Riptortus pedestris</i>
ヒメヘリカメムシ	スカシヒメヘリカメムシ	スカシヒメヘリカメムシ	<i>Liorhyssus hyalinus</i>
		アカヒメヘリカメムシ	<i>Rhopalus maculatus</i>
		ブチヒメヘリカメムシ	<i>Stictopleurus punctatonervosus</i>
ヘリカメムシ	オオツマキヘリカメムシ	オオツマキヘリカメムシ	<i>Hygia lativentris</i>
		ハリカメムシ	<i>Cletus schmidtii</i>
		キバラヘリカメムシ	<i>Plinactus bicoloripes</i>
クヌギカメムシ	ヨツモンカメムシ	ヨツモンカメムシ	<i>Urochela quadrinotata</i>
		クヌギカメムシ	<i>Urostylis westwoodii</i>
ツチカメムシ	ツチカメムシ	ツチカメムシ	<i>Macroscytus japonensis</i>
		マルツチカメムシ	<i>Microporus nigrita</i>
		マダラツチカメムシ	<i>Adomerus variegatus</i>
カメムシ	チャイロクチブトカメムシ	チャイロクチブトカメムシ	<i>Arma custos</i>
		オオクチブトカメムシ	<i>Picromerus bidens</i>
		チャバネアオカメムシ	<i>Plautia stali</i>
		クサギカメムシ	<i>Halyomorpha halys</i>
		ヨツボシカメムシ	<i>Homalogonia obtusa</i>
		ムラサキカメムシ	<i>Carpocoris purpureipennis</i>
		エゾアオカメムシ	<i>Palomena angulosa</i>
		ミヤマカメムシ	<i>Hermolaus amurensis</i>
		スコットカメムシ	<i>Menida disjecta</i>
		ツマジロカメムシ	<i>Menida violacea</i>
		ツノアオカメムシ	<i>Pentatoma japonica</i>
		ナガメ	<i>Eurydema rugosa</i>
		アカスジカメムシ	<i>Graphosoma rubrolineatum</i>
		ツノカメムシ	セアカツノカメムシ
ヒメハサミツノカメムシ	<i>Acanthosoma forficula</i>		
ハサミツノカメムシ	<i>Acanthosoma labiduroides</i>		
ミヤマツノカメムシ	<i>Acanthosoma spinicolle</i>		
セグロベニモンツノカメムシ	<i>Elasmotethus interstinctus</i>		
ヒメツノカメムシ	<i>Elasmucha putoni</i>		
ヘビトンボ	ヘビトンボ	ヘビトンボ	<i>Protohermes grandis</i>
アミメカゲロウ	ヒロハカゲロウ	スカシヒロバカゲロウ	<i>Osmylus hyalinatus</i>
		ウンモンヒロバカゲロウ	<i>Osmylus tessellatus</i>
	ヒメカゲロウ	ヤマトヒメカゲロウ	<i>Hemerobius japonicus</i>
		マルバネヒメカゲロウ	<i>Neuronema albstigma</i>
		シロタエヒメカゲロウ	<i>Micromus dissimilis</i>
	クサカゲロウ	ヤマトクサカゲロウ	<i>Chrysoperla nipponensis</i>
		キタオオクサカゲロウ	<i>Nineta alpicola</i>
フタモンクサカゲロウ	<i>Pseudomallada formosana</i>		

表 5.6-11 昆虫類確認種一覧

(4/17)

目名	科名	種名	学名	
アミカゲ <sup>ロウ</sup>	ウスバ <sup>カゲ</sup> <sup>ロウ</sup>	ウスバカゲロウ	<i>Baliga micans</i>	
		クロコウスバカゲロウ	<i>Myrmeleon bore</i>	
		コウスバカゲロウ	<i>Myrmeleon formicarius</i>	
コウチュウ	オサムシ	コクロナガオサムシ石狩亜種	<i>Carabus arboreus ishikarinus</i>	
		クロオサムシ	<i>Carabus albrechti albrechti</i>	
		セダカオサムシ	<i>Cychrus morawitzi morawitzi</i>	
		ムラサキスジアシゴミムシ	<i>Eobrosicus lutshniki</i>	
		アオゴミムシ	<i>Chlaenius pallipes</i>	
		アカガネアオゴミムシ	<i>Chlaenius abstersus</i>	
		マルゴモクムシ	<i>Harpalus bungii</i>	
		ヒラタゴモクムシ	<i>Harpalus platynotus</i>	
		オオズケゴモクムシ	<i>Harpalus eous</i>	
		ヒメケゴモクムシ	<i>Harpalus jureceki</i>	
		ウスアカクロゴモクムシ	<i>Harpalus sinicus</i>	
		コゴモクムシ	<i>Harpalus tridens</i>	
		アカアシマルガタゴモクムシ	<i>Harpalus tinctulus tinctulus</i>	
		ハコダテゴモクムシ	<i>Nipponoharpalus discrepans</i>	
		キベリゴモクムシ	<i>Loxoncus circumcinctus</i>	
		ホソアトキリゴミムシ	<i>Dromius prolixus</i>	
		ヤホシゴミムシ	<i>Lebidia octoguttata</i>	
		コルリアトキリゴミムシ	<i>Lebia virides</i>	
		フタホシアトキリゴミムシ	<i>Lebia bifenestrata</i>	
		ジュウジアトキリゴミムシ	<i>Lebia retrofasciata</i>	
		ミヤマジュウジアトキリゴミムシ	<i>Lebia sylvorum</i>	
		ミツアナアトキリゴミムシ	<i>Parena tripunctata</i>	
		コハラアカモリヒラタゴミムシ	<i>Agonum lampros</i>	
		ウスグロモリヒラタゴミムシ	<i>Agonum aequatus</i>	
		オオキンナガゴミムシ	<i>Poecilus samurai</i>	
		マルガタナガゴミムシ	<i>Pterostichus subovatus subovatus</i>	
		オオクロナガゴミムシ	<i>Pterostichus japonicus</i>	
		アトマルナガゴミムシ	<i>Pterostichus orientalis antiquus</i>	
		ツンベルグナガゴミムシ	<i>Pterostichus thunbergi</i>	
		クロオオナガゴミムシ	<i>Pterostichus leptis</i>	
		オオクロツヤヒラタゴミムシ	<i>Synuchus nitidus nitidus</i>	
		マルガタゴミムシ	<i>Amara chalcites</i>	
		ガムシ	アカケシガムシ	<i>Cercyon olivrus</i>
		エンマムシ	ツヤマルエンマムシ	<i>Atholus pirithous</i>
		ムクゲ <sup>キノコムシ</sup>	Acrotrichis 属	<i>Acrotrichis</i> sp.
		タマキノコムシ	アカバマルタマキノコムシ	<i>Agathidium rufescens</i>
			ヤマトクサビラタマキノコムシ	<i>Pseudocolenis grandis</i>
		ハネカクシ	Basitrodes 属	<i>Basitrodes</i> sp.
			カタモンニセキノコハネカクシ	<i>Bolitobius setiger</i>
			アカバマルクビハネカクシ	<i>Tachinus gelidus</i>
			Aleochara 属	<i>Aleochara</i> sp.
			クロセミゾハネカクシ	<i>Falagria caesa</i>
			クサアリセミゾハネカクシ	<i>Falagrioma myrmecophila</i>
キタキノコツヤハネカクシ	<i>Gyrophaena sapporensis</i>			
オオクサアリハネカクシ	<i>Pella masakoeae</i>			
ヨツボシモンシデムシ	<i>Nicrophorus quadripunctatus</i>			
ヨツボシヒラタシデムシ	<i>Dendroxena sexcarinata</i>			
オオヒラタシデムシ	<i>Necrophila japonica</i>			
クロヒラタシデムシ	<i>Phosphuga atrata</i>			
ヒラタシデムシ	<i>Silpha perforata</i>			

表 5.6-11 昆虫類確認種一覧

(5/17)

目名	科名	種名	学名
コウチュウ	ハネカクシ	Scaphisoma 属	<i>Scaphisoma</i> sp.
		トビイロセスジハネカクシ	<i>Anotylus vicinus</i>
		Ochtheophilus 属	<i>Ochtheophilus</i> sp.
		ヤマトオオクビボソハネカクシ	<i>Stilicoderus japonicus</i>
		カタアカホソハネカクシ	<i>Atrecus pilicornis</i>
		アカバホソハネカクシ	<i>Othius rufipennis</i>
		ドウバネコガシラハネカクシ	<i>Philonthus cunctator</i>
		アカアシオオメツヤムネハネカクシ	<i>Indoquedius praeditus</i>
		アカバハバビロオオハネカクシ	<i>Agelosus carinatus carinatus</i>
		サビハネカクシ	<i>Ontholestes gracilis</i>
		アカバトガリオオズハネカクシ	<i>Platydracus brevicornis</i>
		クロガネトガリオオズハネカクシ	<i>Platydracus inornatus</i>
		ムネビロハネカクシ	<i>Algon grandicollis</i>
マルハナノミ	アイヌチビマルハナノミ	<i>Nyholmia ainu</i>	
クワガタムシ	コクワガタ	<i>Dorcus rectus rectus</i>	
	アカアシクワガタ	<i>Dorcus rubrofemoratus rubrofemoratus</i>	
	スジクワガタ	<i>Dorcus striatipennis striatipennis</i>	
	ミヤマクワガタ	<i>Lucanus maculifemoratus maculifemoratus</i>	
	オニクワガタ	<i>Prismognathus angularis angularis</i>	
センチコガネ	センチコガネ	<i>Phelotrupes laevistriatus</i>	
コガネムシ	ツノコガネ	<i>Liatongus minutus</i>	
	コブマルエンマコガネ	<i>Onthophagus atripennis</i>	
	クロマルエンマコガネ	<i>Onthophagus ater</i>	
	コクロコガネ	<i>Pedinotrichia picea</i>	
	アカビロウドコガネ	<i>Maladera castanea</i>	
	ハラゲビロウドコガネ	<i>Nipponoserica pubiventris</i>	
	ハイイロビロウドコガネ	<i>Paraserica gricea</i>	
	ヒメサクラコガネ	<i>Anomala geniculata</i>	
	ツヤコガネ	<i>Anomala lucens</i>	
	ヒメコガネ	<i>Anomala rufocuprea</i>	
	セマダラコガネ	<i>Exomala orientalis</i>	
	オオスジコガネ	<i>Mimela costata</i>	
	スジコガネ	<i>Mimela testaceipes</i>	
	マメコガネ	<i>Popillia japonica</i>	
	アオハナムグリ	<i>Cetonia roelofsi roelofsi</i>	
	アオカナブン	<i>Rhomborhina unicolor unicolor</i>	
ヒラタハナムグリ	<i>Nipponovalgus angusticollis angusticollis</i>		
ナガハナノミ	エゾヒゲナガハナノミ	<i>Anchyteis brunneicornis</i>	
タマムシ	キンヘリタマムシ北日本亜種	<i>Lamprodila pretiosa bellula</i>	
	クロナガタマムシ	<i>Agrilus cyaneoniger</i>	
	ブドウナガタマムシ	<i>Agrilus marginicollis</i>	
コメツキムシ	サビキコリ	<i>Agrypnus binodulus binodulus</i>	
	ムナビロサビキコリ	<i>Agrypnus cordicollis</i>	
	ムナグロチャイロツヤハダコメツキ	<i>Scutellathous porrecticollis</i>	
	キバネツヤハダコメツキ	<i>Yukara inornata</i>	
	ダイミョウヒラタコメツキ	<i>Anostirus daimio</i>	
	Calambus 属	<i>Calambus</i> sp.	
	エゾフトヒラタコメツキ	<i>Liotrichus selectus</i>	
	キアシミズギワコメツキ	<i>Fleutiauxellus tutus</i>	
	カバイロコメツキ	<i>Ectinus sericeus sericeus</i>	
	アイヌアカコメツキ	<i>Ampedus ainu ainu</i>	
	アカハラクロコメツキ	<i>Ampedus hypogastricus hypogastricus</i>	
	オオアカコメツキ基亜種	<i>Ampedus optabilis</i>	

表 5.6-11 昆虫類確認種一覧

(6/17)

目名	科名	種名	学名
コウチュウ	コマツキムシ	アカコマツキ	<i>Ampedus orientalis</i>
		ヒメクロコマツキ	<i>Ampedus carbunculus</i>
		キバネホソコマツキ	<i>Dolerosomus gracilis</i>
		オオナガコマツキ	<i>Orthostethus sieboldi sieboldi</i>
		クチブトコマツキ	<i>Silesis musculus musculus</i>
		クロハナコマツキ	<i>Cardiophorus pinguis</i>
	コマツキダマシ	コガタフチトリコマツキダマシ	<i>Microrhagus mystagogus</i>
		クシヒゲミゾコマツキダマシ	<i>Microrhagus ramosus</i>
		コヒメミゾコマツキダマシ	<i>Dromaeolus brevipes</i>
		ツヤヒメミゾコマツキダマシ	<i>Dromaeolus rufulus</i>
	ヘニボタル	アカスジヒシベニボタル	<i>Dictyoptera velata</i>
		ニセジュウジベニボタル	<i>Eulopheros harmandi harmandi</i>
		マエアカクロベニボタル	<i>Cautires zahradniki zahradniki</i>
		ニセクロハナボタル	<i>Plateros hasegawai</i>
	ホタル	オバボタル	<i>Lucidina biplagiata</i>
		カタモンミナミボタル	<i>Drilaster axillaris</i>
	ホタルモドキ	ホソホタルモドキ	<i>Drilonius striatulus</i>
	シヨウカイボシ	Rhagonycha 属	<i>Rhagonycha</i> sp.
		クリイロジョウカイ	<i>Stenothemus badius</i>
		アイヌニンフジョウカイ	<i>Asiopodabrus ainu ainu</i>
	カツオブシムシ	チビマルカツオブシムシ	<i>Anthrenus japonicus</i>
	ヒョウホムシ	オオホコリタケシバンムシ	<i>Caenocara tsuchiguri</i>
	コクヌスト	オオマダラコクヌスト	<i>Kolibacia tibialis</i>
	サビカッコウムシ	モンサビカッコウムシ	<i>Neoclerus ornatus</i>
	カッコウムシ	キオビナガカッコウムシ	<i>Opilo carinatus</i>
		ナガマルカッコウムシ	<i>Allochotes sakaii</i>
	シヨウカイモドキ	ツマキアオジョウカイモドキ	<i>Malachius prolongatus</i>
	ケシキスイ	マメヒラタケシキスイ	<i>Eपुरaea paulula</i>
		カクアシヒラタケシキスイ	<i>Eपुरaea bergeri</i>
		キバナガヒラタケシキスイ	<i>Eपुरaea mandibularis</i>
		セアカヒメヒラタケシキスイ	<i>Eपुरaea submicrurula</i>
		クロハナケシキスイ	<i>Carpophilus chalybeus</i>
		クロヒラタケシキスイ	<i>Ipidia variolosa</i>
		ヒョウモンケシキスイ	<i>Glischrochilus pantherinus</i>
	ホソヒラタムシ	クロオビセマルヒラタムシ	<i>Psammoecus fasciatus</i>
	チビヒラタムシ	キボシチビヒラタムシ	<i>Laemophloeus submonilis</i>
	オオキノコムシ	ルイスコマツキモドキ	<i>Languriomorpha lewisi</i>
		ケナガマルキスイ	<i>Toramus glisonothoides</i>
		オオキノコムシ	<i>Encaustes cruenta praenobilis</i>
		ヒメエグリオオキノコ北海道亜種	<i>Episcapha lewisi hayashii</i>
		ミヤマオビオオキノコ	<i>Episcapha gorhami</i>
		カタボシエグリオオキノコ	<i>Megalodacne bellula</i>
		ベニバネチビオオキノコ	<i>Rotitma rufipennis</i>
		クロチビオオキノコ	<i>Tritoma niponensis</i>
	ミジソムシ	ナカグロミジソムシ	<i>Arthrolips lewisii</i>
		Corylophodes 属	<i>Corylophodes</i> sp.
	テントウダマシ	セグロツヤテントウダマシ	<i>Lycoperdina mandarina</i>
	テントウムシ	クロツヤテントウ	<i>Serangium japonicum</i>
		ズグロツヤテントウ	<i>Serangium punctum</i>
		ヒメアカホシテントウ	<i>Chilocorus renipustulatus</i>
カメノコテントウ		<i>Aiolocaria hexaspilota</i>	
シロトホシテントウ		<i>Calvia decemguttata</i>	
シロジュウシホシテントウ		<i>Calvia quatuordecimguttata</i>	

表 5.6-11 昆虫類確認種一覧

(7/17)

目名	科名	種名	学名
コウチュウ	テントウムシ	シロジュウゴホシテントウ	<i>Calvia quindecimguttata</i>
		ナナホシテントウ	<i>Coccinella septempunctata</i>
		ナミテントウ	<i>Harmonia axyridis</i>
		エゾアザミテントウ	<i>Henosepilachna pustulosa</i>
		シロホシテントウ	<i>Vibidia duodecimguttata</i>
		アトホシヒメテントウ	<i>Nephus phosphorus</i>
		セスジヒメテントウ	<i>Nephus levaillanti</i>
		ハレヤヒメテントウ	<i>Sasajiscymnus hareja</i>
		オオタヒメテントウ	<i>Scymnus ohtai</i>
		ツマアカヒメテントウ	<i>Scymnus dorcatomoides</i>
		コクロヒメテントウ	<i>Scymnus posticalis</i>
ナガヒメテントウ	<i>Scymnus ruficeps</i>		
ヒメマキムシ	ヒメマキムシ	ヒメマキムシ	<i>Stephostethus chinensis</i>
		ウスチャケシマキムシ	<i>Corticicara gibbosa</i>
アトコフコ <sup>ゴ</sup> ミムシ <sup>ダ</sup> マシ	マダラホソカタムシ	<i>Trachypholis variegata</i>	
コキノコムシ	クロコキノコムシ	<i>Mycetophagus ater</i>	
ツツキノコムシ	ツツキノコムシ	キタツツキノコムシ	<i>Cis seriatopilosus</i>
		ツヤクロホソツツキノコムシ	<i>Orthocis nigrosplendidus</i>
ナガ <sup>ク</sup> チキムシ	ムツモンナガクチキ	ムツモンナガクチキ	<i>Dircaeomorpha validicornis</i>
		オオクロホソナガクチキ	<i>Phloeotrya bellicosa</i>
		クロホソナガクチキ	<i>Phloeotrya rugicollis</i>
ハナノミ	シラホシハナノミ	シラホシハナノミ	<i>Hoshihananomia perlata</i>
		ヤクハナノミ	<i>Yakuhananomia yakui</i>
		ヨシダヒメハナノミ	<i>Falsomordellistena yoshidai</i>
		チビヒメハナノミ	<i>Pseudomordellistena chibi</i>
		カグヤヒメハナノミ	<i>Pseudomordellistena kaguyahime</i>
		エゾヒメハナノミ	<i>Pseudomordellistena yezoensis</i>
カミキリモドキ	アカクビカミキリモドキ	アカクビカミキリモドキ	<i>Indasclera ruficollis</i>
		キバネカミキリモドキ	<i>Nacerdes luteipennis</i>
		ウスグロカミキリモドキ	<i>Nacerdes strandi</i>
		アオカミキリモドキ	<i>Nacerdes waterhousei</i>
		クロアオカミキリモドキ	<i>Oedemera concolor</i>
		モモブトカミキリモドキ	<i>Oedemera lucidicollis lucidicollis</i>
		アカハネムシ	ヒメアカハネムシ
アリモト <sup>キ</sup>	クロチビアリモドキ	<i>Anthicomorphus niponicus niponicus</i>	
ニセクビ <sup>ホ</sup> ソムシ	オビモンニセクビソムシ	<i>Syzeton quadrimaculatus</i>	
ゴ <sup>ミ</sup> ムシ <sup>ダ</sup> マシ	オオメキバネハムシ <sup>ダ</sup> マシ	オオメキバネハムシ <sup>ダ</sup> マシ	<i>Lagriia rufipennis</i>
		ニホンキマワリ	<i>Plesiophthalmus nigrocyaneus nigrocyaneus</i>
		ムネビロスナゴミムシ <sup>ダ</sup> マシ	<i>Gonocephalum japanum Japanum</i>
		クロツヤバネクチキムシ	<i>Hymenalia unicolor</i>
		ホソクビキマワリ	<i>Stenophanes mesostena</i>
ホソカミキリムシ	ホソカミキリ	<i>Distenia gracilis gracilis</i>	
カミキリムシ	コバネカミキリ	コバネカミキリ	<i>Psephactus remiger remiger</i>
		ノコギリカミキリ	<i>Prionus insularis insularis</i>
		ヤツボシハナカミキリ 北海道以北亜種	<i>Leptura annularis mimica</i>
		ヨツスジハナカミキリ	<i>Leptura ochraceofasciata ochraceofasciata</i>
		クロオオハナカミキリ	<i>Macroleptura thoracica</i>
		アカハナカミキリ	<i>Stictoleptura succedanea</i>
		ホソコバネカミキリ	<i>Necydalis pennata</i>
		シロヘリトラカミキリ	<i>Anaglyptus colobothooides</i>
		オオアオカミキリ	<i>Chloridolum thaliodes</i>
		チャイロチビヒラタカミキリ	<i>Phymatodes infasciatus</i>
		アカネカミキリ	<i>Poecilium maaki viarius</i>

表 5.6-11 昆虫類確認種一覧

(8/17)

目名	科名	種名	学名	
コチユ	カミキリシ	アカネトラカミキリ	<i>Brachyclytus singularis</i>	
		トゲヒゲトラカミキリ	<i>Demonax transilis</i>	
		ホソトラカミキリ	<i>Rhaphuma xenisca</i>	
		ナカネアメイロカミキリ	<i>Obrium nakanei</i>	
		ヒトオビアラゲカミキリ	<i>Rhoaloscelis unifasciatus</i>	
		シナノクロフカミキリ	<i>Asaperda agapanthina agapanthina</i>	
		ナガゴマフカミキリ	<i>Mesosa longipennis</i>	
		タテスジゴマフカミキリ	<i>Mesosa senilis</i>	
		ピロウドカミキリ	<i>Acalolepta fraudatrix fraudatrix</i>	
		ゴマダラカミキリ	<i>Anoplophora malasiaca</i>	
		ヒメヒゲナガカミキリ	<i>Monochamus subfasciatus subfasciatus</i>	
		アカガネカミキリ	<i>Plectrura metallica metallica</i>	
		ガロアケシカミキリ	<i>Exocentrus galloisi</i>	
		シラオビゴマフケシカミキリ	<i>Exocentrus guttulatus guttulatus</i>	
		キッコウモンケシカミキリ	<i>Exocentrus testudineus</i>	
		ニイジマチピカミキリ	<i>Egesina bifasciana bifasciana</i>	
		トガリシロオビスピカミキリ	<i>Pterolophia caudata caudata</i>	
		アトモンサピカミキリ	<i>Pterolophia granulate</i>	
		エゾサピカミキリ	<i>Pterolophia tsurugiana</i>	
		ハンノアオカミキリ	<i>Eutetrappa chrysochloris chrysochloris</i>	
		シラホシカミキリ	<i>Glenea relicta relicta</i>	
		オニグルミノキモンカミキリ	<i>Menesia flavotecta</i>	
		キモンカミキリ	<i>Menesia sulphurata</i>	
		チチブニセリソゴカミキリ 北海道亜種	<i>Niponostenostola nipponensis konoii</i>	
		ニセヤツボシカミキリ	<i>Saperda subobliterata</i>	
		エゾナガヒゲカミキリ	<i>Hirtaeschopalaea nubila</i>	
		ハムシ	ヨモギハムシ	<i>Chrysolina aurichalcea</i>
			ヤナギハムシ	<i>Chrysomela vigintipunctata vigintipunctata</i>
			フジハムシ	<i>Gonioctena rubripennis</i>
			ヤナギルリハムシ	<i>Plagioderma versicolora</i>
			キイロツブノミハムシ	<i>Aphthona abdominalis</i>
			ツブノミハムシ	<i>Aphthona perminuta</i>
			スズキミドリトビハムシ	<i>Crepidodera sahalinensis</i>
			オオバコトビハムシ	<i>Longitarsus scutellaris</i>
ムネアカオトビハムシ	<i>Luperomorpha collaris</i>			
キアシノミハムシ	<i>Luperomorpha tenebrosa</i>			
チュウジョウキスジノミハムシ	<i>Phyllotreta chujoe</i>			
クビボソトビハムシ	<i>Pseudoliprus hirtus</i>			
カタクリハムシ	<i>Sangariola punctatostriata</i>			
ヒゲナガウスバハムシ	<i>Stenoluperus nipponensis</i>			
イタヤハムシ	<i>Pyrrhalta fuscipennis</i>			
コニシケブカハムシ	<i>Pyrrhalta konishii</i>			
ニレハムシ	<i>Xanthogaleruca maculicollis</i>			
キクビアオハムシ	<i>Agelasa nigriceps</i>			
ハンノキハムシ	<i>Agelastica coerulea</i>			
イタドリハムシ	<i>Gallerucida bifasciata</i>			
ウリハムシモドキ	<i>Atrachya menetriesi</i>			
クワハムシ	<i>Fleutiauxia armata</i>			
アトボシハムシ	<i>Paridea angulicollis</i>			
ドウガネツヤハムシ	<i>Oomorhoides cupreatus</i>			
アオグロツヤハムシ	<i>Oomorhoides nigrocaeruleus</i>			
セスジツツハムシ	<i>Cryptocephalus parvulus</i>			
リンゴコフキハムシ	<i>Lypesthes ater</i>			

表 5.6-11 昆虫類確認種一覧

(9/17)

目名	科名	種名	学名	
コウチュウ	ハムシ	アオバネサルハムシ	<i>Basilepta fulvipes</i>	
	ヒゲナカゾウムシ	マダラフトヒゲナガゾウムシ	<i>Basitropis nitidicutis</i>	
		スネアカヒゲナガゾウムシ	<i>Autotropis distinguenda</i>	
	オトシブミ	ナラルリオトシブミ	<i>Euops konoii</i>	
		ルリオトシブミ	<i>Euops punctatostriatus</i>	
	ミツギリゾウムシ	サキブトホソクチゾウムシ	<i>Alocentron pachyrrhynchum</i>	
		マメホソクチゾウムシ	<i>Pseudopiezotrachelus collare</i>	
	ゾウムシ	チビデオゾウムシ	<i>Acalyptus carpini</i>	
		オビモンハナゾウムシ	<i>Anthonomus rectirostris</i>	
		クロナガハナゾウムシ	<i>Bradybatus sharpi</i>	
		キマダラシギゾウムシ	<i>Curculio cerasorum</i>	
		クロシギゾウムシ	<i>Curculio distinguendus</i>	
		カシワノミゾウムシ	<i>Orchestes koltzei</i>	
		ムネスジノミゾウムシ	<i>Orchestes amurensis</i>	
		ニレノミゾウムシ	<i>Orchestes mutabilis</i>	
		マダラノミゾウムシ	<i>Orchestes nomizo</i>	
		ツヤケシヒメゾウムシ	<i>Pellobaris melancholica</i>	
		タデトゲサルゾウムシ	<i>Homorosoma asperum</i>	
		ノコギリクモゾウムシ	<i>Mecopomorphus griseus</i>	
		ワシバナヒラタキクイゾウムシ	<i>Cossonus gibbirostris</i>	
		アカネニセクチブトククイゾウムシ	<i>Stenoscelodes hayashii</i>	
		キボシクチカクシゾウムシ	<i>Rhyssematoides flavomaculatus</i>	
		ハイイロヒョウタンゾウムシ	<i>Catapionus nobulosus nobulosus</i>	
		ハナウドゾウムシ	<i>Cneorhinus viridimetallicus</i>	
		ミドリクチブトゾウムシ	<i>Cyphicerus viridulus</i>	
		カシワクチブトゾウムシ	<i>Nothomylocerus griseus</i>	
		トゲアシヒゲボソゾウムシ	<i>Phyllobius annectens</i>	
		リンゴヒゲボソゾウムシ	<i>Phyllobius prolongatus</i>	
		アカアシチビコフキゾウムシ	<i>Sitona suturalis</i>	
		クワヒョウタンゾウムシ	<i>Scepticus konoii</i>	
		カツオゾウムシ	<i>Lixus impressiventris</i>	
		コゲチャツツゾウムシ	<i>Carcilia tenuistriata</i>	
		クロアナアキゾウムシ	<i>Hylobius gebleri</i>	
		フトアナアキゾウムシ	<i>Pimelocerus gigas</i>	
		コブダルマカレキゾウムシ	<i>Lobosoma rausense</i>	
		アトジロカレキゾウムシ	<i>Acicnemis dorsonigrata</i>	
		Cryphalus 属	<i>Cryphalus</i> sp.	
		ニレノオオキクイムシ	<i>Scolytus esuriens</i>	
		タイコンキクイムシ	<i>Scolytoplatypus tycon</i>	
		Xyleborus 属	<i>Xyleborus</i> sp.	
	オサゾウムシ	ササコクゾウムシ	<i>Diocalandra sasa</i>	
	ハチ	ミフシハバチ	ニレチュウレンジ	<i>Arge captiva</i>
			アカスジチュウレンジ	<i>Arge nigronodosa</i>
		ハバチ	ハグロハバチ	<i>Allantus luctifer</i>
			Allantus 属	<i>Allantus</i> sp.
			セグロカブラハバチ	<i>Athalia infumata</i>
			ニホンカブラハバチ	<i>Athalia japonica</i>
ツノキクロハバチ			<i>Taxonus flavicornis</i>	
Dolerus 属			<i>Dolerus</i> sp.	
イワガラミハバチ			<i>Perineura pictipennis</i>	
トゲセグロアオハバチ			<i>Tenthredo convergenata</i>	
セグロコシホソハバチ			<i>Tenthredo finschi seguro</i>	
Tenthredo 属			<i>Tenthredo</i> sp.	

表 5.6-11 昆虫類確認種一覧

(10/17)

目名	科名	種名	学名		
ハチ	ヒラタタマバチ	ヒラタタマバチ科	Ibaliidae sp.		
	アシブトコバチ	フィスケアシブトコバチ	<i>Brachymeria fiskei</i>		
	シリアゲコバチ	シリアゲコバチ	<i>Leucospis japonica</i>		
	アリエトリコバチ	エサキアリエドリコバチ	<i>Eucharis esakii</i>		
	コマユバチ	Braunsia 属		<i>Braunsia</i> sp.	
		Hartemita 属		<i>Hartemita</i> sp.	
		Ascogaster 属		<i>Ascogaster</i> sp.	
		ヒメコウラコマユバチ		<i>Microchelonus pectiophorae</i>	
		Aridelus 属		<i>Aridelus</i> sp.	
	ヒメバチ	Ophion 属		<i>Ophion</i> sp.	
		エゾホソオナガヒメバチ		<i>Ephialtes hokkaidonis</i>	
		Epirhyssa 属		<i>Epirhyssa</i> sp.	
		オオホシオナガバチ		<i>Megarhyssa praecellens</i>	
	Netelia 属			<i>Netelia</i> sp.	
	アリカタバチ	ツヤムカシアリカタバチ	<i>Acrepyris japonicus</i>		
	セイボウ	ムネツヤセイボウ	<i>Omalus aeneus japonicus</i>		
	クモバチ	オオヒメクモバチ		<i>Auplopus pygialis</i>	
		キタクロクモバチ		<i>Anoplius petiolaris</i>	
		オオシロフクモバチ		<i>Episyron arrogans</i>	
	コツチバチ	オオコツチバチ		<i>Tiphia latistriata</i>	
		Tiphia 属		<i>Tiphia</i> sp.	
	ツチバチ	キオビツチバチ	<i>Scolia oculata</i>		
	アリ	トビニセハリアリ		<i>Hypoponera punctatissima</i>	
		シロクシケアリ		<i>Myrmica kotokui</i>	
		ハラクシケアリ		<i>Myrmica ruginodis</i>	
		ツボクシケアリ		<i>Myrmica taediosa</i>	
		ヤマトアシナガアリ		<i>Aphaenogaster japonica</i>	
		アズマオオズアリ		<i>Pheidole fervida</i>	
		チャイロムネボソアリ		<i>Temnothorax kubira</i>	
		トビイロシワアリ		<i>Tetramorium tsushimae</i>	
		トフシアリ		<i>Solenopsis japonica</i>	
		カドフシアリ		<i>Myrmecina nipponica</i>	
		シベリアカタアリ		<i>Dolichoderus sibiricus</i>	
		トビイロケアリ		<i>Lasius japonicus</i>	
		キイロケアリ		<i>Lasius flavus</i>	
		アメイロケアリ		<i>Lasius umbratus</i>	
		クロクサアリ		<i>Lasius fuji</i>	
		ヒラアシクサアリ		<i>Lasius spathepus</i>	
		テラニシケアリ		<i>Lasius orientalis</i>	
		アメイロアリ		<i>Nylanderia flavipes</i>	
		アカヤマアリ		<i>Formica sanguinea</i>	
		エゾアカヤマアリ		<i>Formica yessensis</i>	
		クロヤマアリ		<i>Formica japonica</i>	
		ヤマクロヤマアリ		<i>Formica lemani</i>	
		クロオオアリ		<i>Camponotus japonicus</i>	
		ムネアカオオアリ		<i>Camponotus obscuripes</i>	
		ヨツボシオオアリ		<i>Camponotus quadrinotatus</i>	
		スズメバチ	スズバチ		<i>Oreumenes decoratus</i>
			カタグロチビドロバチ		<i>Stenodynerus chinensis kalinowskii</i>
	キボシアシナガバチ			<i>Polistes nipponensis</i>	
	コアシナガバチ			<i>Polistes snelleni</i>	
キオビホオナガスズメバチ			<i>Dolichovespula media</i>		
コガタスズメバチ			<i>Vespa analis</i>		

表 5.6-11 昆虫類確認種一覧

(11/17)

目名	科名	種名	学名	
ハチ	スズメバチ	チャイロスズメバチ	<i>Vespa dybowskii</i>	
		オオスズメバチ	<i>Vespa mandarinia</i>	
		キイロスズメバチ	<i>Vespa simillima</i>	
		クロスズメバチ	<i>Vespula flaviceps</i>	
		ツヤクロスズメバチ	<i>Vespula rufa</i>	
		シダクロスズメバチ	<i>Vespula shidai</i>	
	アナバチ	ヤマジガバチ	<i>Ammophila infesta</i>	
	キングバチ	オオドロバチモドキ	<i>Nysson spinosus malaisei</i>	
		クロユビキングチ	<i>Ectemnius nigratarsus nigratarsus</i>	
		クロタビキングチ	<i>Rhopalum pygidiale</i>	
	ムカシハナバチ	オオムカシハナバチ	<i>Colletes collaris</i>	
		アルマンメンハナバチ	<i>Hylaeus globulus</i>	
		ニッポンメンハナバチ	<i>Hylaeus transversalis</i>	
	ヒメハナバチ	ハンゴンヒメハナバチ	<i>Andrena denticulata</i>	
		アキツシマヒメハナバチ	<i>Andrena akitsushimae</i>	
		トゲホオヒメハナバチ	<i>Andrena dentata</i>	
		ワタセヒメハナバチ	<i>Andrena watasei</i>	
		エゾヒメハナバチ	<i>Andrena ezoensis</i>	
	コハナバチ	アトジマコハナバチ	<i>Halictus tsingtouensis</i>	
		ミドリコハナバチ	<i>Halictus tumulorum ferripennis</i>	
		ヨイヤミコハナバチ	<i>Lasioglossum caliginosum</i>	
		ホクダイコハナバチ	<i>Lasioglossum duplex</i>	
		キオビコハナバチ	<i>Lasioglossum sibiricum</i>	
		ミヤマツヤコハナバチ	<i>Lasioglossum exiliceps</i>	
		エゾカタコハナバチ	<i>Lasioglossum kansuense</i>	
		ニッポンカタコハナバチ	<i>Lasioglossum nipponicola</i>	
		シロスジカタコハナバチ	<i>Lasioglossum occidens</i>	
		ヤマトヤドリコハナバチ	<i>Sphecodes nipponicus</i>	
	ハキリバチ	オオハキリバチ	<i>Megachile sculpturalis</i>	
		ムナカタハキリバチ	<i>Megachile willughbiella munakatai</i>	
	ミツバチ	クロツヤハナバチ	<i>Ceratina megastigmata</i>	
		キオビツヤハナバチ	<i>Ceratina flavipes</i>	
		ヤマトツヤハナバチ	<i>Ceratina japonica</i>	
		ウシヅノキマダラハナバチ	<i>Nomada comparata</i>	
		ギンランキマダラハナバチ	<i>Nomada ginran</i>	
		ハリマキマダラハナバチ	<i>Nomada harimensis</i>	
		ミヤマキマダラハナバチ	<i>Nomada montverna</i>	
		セイヨウオオマルハナバチ	<i>Bombus terrestris</i>	
		トラマルハナバチ北海道亜種	<i>Bombus diversus tersatus</i>	
		コマルハナバチ北海道亜種	<i>Bombus ardens sakagamii</i>	
		ニセハイイロマルハナバチ	<i>Bombus pseudobaicalensis</i>	
		セイヨウミツバチ	<i>Apis mellifera</i>	
		ハエ	ヒメカガンボ	アイヌカスリヒメガガンボ
	イツモンヒメガガンボ			<i>Erioconopa elegantula</i>
	Limonia 属			<i>Limonia</i> sp.
	オオキバネヒメガガンボ			<i>Metalimnobia bifasciata</i>
	マダラヒメガガンボ			<i>Metalimnobia quadrimaculata</i>
カガンボ	スネプトクシヒゲガガンボ		<i>Ctenophora nohirae</i>	
	ヒメクシヒゲガガンボ		<i>Tanyptera angustistylus</i>	
	マエキガガンボ		<i>Indotipula yamata yamata</i>	
	Tipula 属		<i>Tipula</i> sp.	
ケバエ	キスネアシボソケバエ		<i>Bibio aneuretus</i>	
トゲナシケバエ	クロトゲナシケバエ		<i>Plecia adiastola</i>	

表 5.6-11 昆虫類確認種一覧

(12/17)

目名	科名	種名	学名
ハエ	ツノキノコハエ	Macrocera 属	<i>Macrocera</i> sp.
	ナミキノコハエ	Mycetophila 属	<i>Mycetophila</i> sp.
	クロハネキノコハエ	クロバネキノコバエ科	Sciaridae sp.
	タマハエ	タマバエ科	Cecidomyiidae sp.
	チョウハエ	チョウバエ科	Psychodidae sp.
	カ	ミスジシマカ	<i>Stegomyia galloisi</i>
	ヌカカ	Culicoides 属	<i>Culicoides</i> sp.
	ユスリカ	キミドリユスリカ	<i>Chironomus biwapurimus</i>
		ユスリカ科	Chironomidae sp.
	クサアブ	ネグロクサアブ	<i>Coenomyia basalis</i>
	ミスアブ	ハラビロミズアブ	<i>Clitellaria obtusa</i>
		ネグロミズアブ	<i>Craspedometopon frontale</i>
		ルリミズアブ	<i>Sargus nipponensis</i>
		Odontomyia filipjewi	<i>Odontomyia filipjewi</i>
	キアブモドキ	ヒゲナガキアブモドキ	<i>Xylomya longicornis</i>
	アブ	アカウシアブ	<i>Tabanus chrysurus</i>
		ニッポンシロフアブ	<i>Tabanus nipponicus</i>
		ヤマトアブ	<i>Tabanus rufidens</i>
		ウシアブ	<i>Tabanus trigonus</i>
	ツリアブ	ホシツリアブ	<i>Anthrax distigma</i>
		ビロウドツリアブ	<i>Bombylius major</i>
	ムシキアブ	ヒメキンイシアブ	<i>Choerades japonicus</i>
		チャイロオオイシアブ	<i>Laphria rufa</i>
		ミノモホソムシヒキ	<i>Leptogaster minomensis</i>
		シオヤアブ	<i>Promachus yesonicus</i>
		シリアカコムシヒキ	<i>Ktyr caucasicus</i>
ナミマガリケムシヒキ	<i>Neoitamus angusticornis</i>		
オトリハエ	Rhamphomyia 属	<i>Rhamphomyia</i> sp.	
セダカハエ	Leptozeza 属	<i>Leptozeza</i> sp.	
アシナカハエ	Gymnopternus 属	<i>Gymnopternus</i> sp.	
	Neurigona 属	<i>Neurigona</i> sp.	
	マダラホソアシナガバエ	<i>Condylostylus nebulosus</i>	
ヤリハエ	ヤリバエ科	Lonchopteridae sp.	
ノミハエ	オオアカノミバエ	<i>Diplonevra peregrina</i>	
	オオクロノミバエ	<i>Stichillus japonicus</i>	
	ノミバエ科	Phoridae sp.	
ハナアブ	クロヒラタアブ	<i>Betasyrphus serarius</i>	
	ヨコジマオオヒラタアブ	<i>Dideoides latus</i>	
	ホソヒラタアブ	<i>Episyrphus balteatus</i>	
	フタホシヒラタアブ	<i>Eupeodes corollae</i>	
	ミナミヒメヒラタアブ	<i>Sphaerophoria indiana</i>	
	ホソヒメヒラタアブ	<i>Sphaerophoria macrogaster</i>	
	フデヒメヒラタアブ	<i>Sphaerophoria scripta</i>	
	オオフタホシヒラタアブ	<i>Syrphus ribesii</i>	
	キベリヒラタアブ	<i>Xanthogramma sapporense</i>	
	ツマグロコシボソハナアブ	<i>Allobaccha apicalis</i>	
	サッポロヒゲナガハナアブ	<i>Chrysotoxum sapporense</i>	
	ホソツヤヒラタアブ	<i>Melanostoma mellinum</i>	
	Platycheirus 属	<i>Platycheirus</i> sp.	
	キアシマメヒラタアブ	<i>Paragus haemorrhous</i>	
	ツノヒゲハナアブ	<i>Callicera aurata</i>	
	ニトベッコウハナアブ	<i>Volucella linearis</i>	
	シロスジベッコウハナアブ	<i>Volucella pellucens tabanoides</i>	

表 5.6-11 昆虫類確認種一覧

(13/17)

目名	科名	種名	学名
ハエ	ハナアブ <sup>♂</sup>	マドヒラタアブ	<i>Eumerus japonicus</i>
		アシプトハナアブ	<i>Helophilus eristaloideus</i>
		フタガタハラブトハナアブ	<i>Mallota dimorpha</i>
		スズキナガハナアブ	<i>Spilomyia suzukii</i>
		ジョウザンナガハナアブ	<i>Temnostoma jozankeanum</i>
		スカシバクロハラナガハナアブ	<i>Chalcosyrphus latifrons</i>
		ナミルリイロハラナガハナアブ	<i>Xylota amamiensis</i>
		ヒメルリイロアリノスアブ	<i>Archimicrodon simplex</i>
ハネレハ <sup>♂</sup> エ	Psila 属	<i>Psila</i> sp.	
メハ <sup>♂</sup> エ	ヤマトクチブトメバエ	<i>Leopoldius japonicus</i>	
ハネフリハ <sup>♂</sup> エ	Euxesta 属	<i>Euxesta</i> sp.	
ヒロクチハ <sup>♂</sup> エ	Euprosopia 属		<i>Euprosopia</i> sp.
		スジブトヒメヒロクチバエ	<i>Rivellia alini</i>
		ミスジヒメヒロクチバエ	<i>Rivellia nigricans</i>
ミハ <sup>♂</sup> エ	タテジマハマダラミバエ		<i>Acanthonevra formosana</i>
		ハルササハマダラミバエ	<i>Paragastrozona japonica</i>
		クロミスジハマダラミバエ	<i>Calosphenisca aliguantula</i>
		ナカホシハマダラミバエ	<i>Magnimyolia media</i>
シマハ <sup>♂</sup> エ	シモフリシマバエ		<i>Homoneura euaresta</i>
		Homoneura matsumurai	<i>Homoneura matsumurai</i>
		Homoneura mayrhoferi	<i>Homoneura mayrhoferi</i>
		ヤブクロシマバエ	<i>Minettia longipennis</i>
ハ <sup>♂</sup> ッコウハ <sup>♂</sup> エ	ベッコウバエ	<i>Dryomyza formosa</i>	
ヤチハ <sup>♂</sup> エ	カスリマルヒゲヤチバエ	<i>Pherbellia nana reticulata</i>	
ツヤホリハ <sup>♂</sup> エ	ヒトテンツヤホソバエ	<i>Sepsis monostigma</i>	
キモク <sup>♂</sup> リハ <sup>♂</sup> エ	Meromyza 属		<i>Meromyza</i> sp.
		Pachylophus 属	<i>Pachylophus</i> sp.
		Thaumatomyia 属	<i>Thaumatomyia</i> sp.
シラミハ <sup>♂</sup> エ	ヒメシカシラミバエ	<i>Lipoptena fortisetosa</i>	
ハナハ <sup>♂</sup> エ	Hylemya nigrimana		<i>Hylemya nigrimana</i>
		Pegomya japonica	<i>Pegomya japonica</i>
		ミヤマハナバエ	<i>Pegoplata annulata</i>
イエハ <sup>♂</sup> エ	モモグロオオイエバエ		<i>Muscina angustifrons</i>
		セスジミドリイエバエ	<i>Eudasyphora cyanicolor</i>
		キバネクロバエ	<i>Mesembrina resplendens</i>
		ヨツボシホソイエバエ	<i>Helina quardrum</i>
		セスジホソイエバエ	<i>Helina reversio</i>
		Mydaea 属	<i>Mydaea</i> sp.
		アシマダラハナレメイエバエ	<i>Coenosia variegata</i>
クロハ <sup>♂</sup> エ	オオクロバエ		<i>Calliphora nigribarbis</i>
		チビクロバエ	<i>Onesia pusilla</i>
		コガネキンバエ	<i>Lucilia ampullacea</i>
		ニセミヤマキンバエ	<i>Lucilia bazini</i>
		ミヤマキンバエ	<i>Lucilia papuensis</i>
ハエ	Pollenia pediculata	<i>Pollenia pediculata</i>	
ニクハ <sup>♂</sup> エ	シリグロニクバエ		<i>Helicophagella melanura</i>
		ホリニクバエ	<i>Myorhina horii</i>
		カガニクバエ	<i>Myorhina kagaensis</i>
		シリタカニクバエ	<i>Parasarcophaga shiritakaensis</i>
		ナミニクバエ	<i>Parasarcophaga similis</i>
ヤト <sup>♂</sup> リハ <sup>♂</sup> エ	セスジナガハリバエ		<i>Dexia flavipes</i>
		トカチハリバエ	<i>Parasetigena sivestris</i>
		オオズクロスジハリバエ	<i>Gonia chinensis</i>

表 5.6-11 昆虫類確認種一覧

(14/17)

目名	科名	種名	学名
ハエ	ヤドリハエ	アカヒョウタンハリバエ	<i>Cylindromyia brassicaria</i>
		シナヒラタハナバエ	<i>Ectophasia rotundiventris</i>
		アカアシナガハリバエ	<i>Dexiosoma canina</i>
		Tachina micado	<i>Tachina micado</i>
トビケラ	カリナカレトビケラ	Apsilochorema 属	<i>Apsilochorema</i> sp.
	ヤマトビケラ	キタコヤマトビケラ	<i>Agapetus inaequispinosus</i>
		イノブスヤマトビケラ	<i>Glossosoma ussuricum</i>
		Glossosoma 属	<i>Glossosoma</i> sp.
	イワトビケラ	Plectrocnemia 属	<i>Plectrocnemia</i> sp.
	シマトビケラ	Cheumatopsyche 属	<i>Cheumatopsyche</i> sp.
		ウルマーシマトビケラ	<i>Hydropsyche orientalis</i>
		シマトビケラ科	Hydropsychidae sp.
	マルハネトビケラ	マルバナトビケラ	<i>Phryganopsyche latipennis latipennis</i>
	トビケラ	ムラサキトビケラ	<i>Eubasilissa regina</i>
	カクツツトビケラ	フトヒゲカクツツトビケラ	<i>Lepidostoma complicatum</i>
		コカクツツトビケラ	<i>Lepidostoma japonicum</i>
		Lepidostoma 属	<i>Lepidostoma</i> sp.
	エグリトビケラ	トビイロトビケラ	<i>Nothopsyche pallipes</i>
		サハリントビケラ	<i>Asynarchus sachalinensis</i>
コエグリトビケラ	Apatania 属	<i>Apatania</i> sp.	
チョウ	スカ	マユミシロスガ	<i>Yponomeuta spodocrossus</i>
	ヒラタマルハキバガ	マエジロヒラタマルハキバガ	<i>Depressaria taciturna</i>
	キバガ	ウスグロキバガ	<i>Dichomeris rasilella</i>
	スカシバガ	キクビスカシバ	<i>Nokona feralis</i>
		アカオビコスカシバ	<i>Synanthedon formicaeformis</i>
		ヒトスジコスカシバ	<i>Synanthedon multitarus</i>
	ハマキガ	オオクリモンヒメハマキ	<i>Olethreutes transversana</i>
		ヨモギネムシガ	<i>Epiblema foenella</i>
	メイガ	ウスベニトガリメイガ	<i>Endotricha olivacealis</i>
		コフタグロマダラメイガ	<i>Furcata paradichromella</i>
		アカマダラメイガ	<i>Onococera semirubella</i>
		トビスジマダラメイガ	<i>Patagoniodes nipponellus</i>
	ツトガ	ヒメセスジノメイガ	<i>Toruliquama obliquilinealis</i>
		ホシオビホソノメイガ	<i>Nomis albopedalis</i>
		シロアシクロノメイガ	<i>Omiodes tristrialis</i>
		オオキバラノメイガ	<i>Pleuroptya harutai</i>
		マエアカスカシノメイガ	<i>Palpita nigropunctalis</i>
		ヨツボシノメイガ	<i>Talanga quadrimaculalis</i>
	ヤマユカ	クスサン	<i>Saturnia japonica japonica</i>
	スズメガ	ヒメクチバスズメ	<i>Marumba jankowskii</i>
		ノコギリズズメ	<i>Laothoe amurensis amurensis</i>
		クロスキバホウジャク	<i>Hemaris affinis</i>
	イカリモンガ	イカリモンガ	<i>Pterodecta felderi felderi</i>
	セセリチョウ	キバナセセリ	<i>Burara aquilina chrysaeglia</i>
		コキマダラセセリ	<i>Ochlodes venatus venatus</i>
		キマダラセセリ	<i>Potanthus flavus flavus</i>
		コチャバナセセリ	<i>Thoressa varia varia</i>
	アゲハチョウ	カラスアゲハ	<i>Papilio dehaanii dehaanii</i>
		ミヤマカラスアゲハ	<i>Papilio maackii maackii</i>
		キアゲハ	<i>Papilio machaon hippocrates</i>
	シロチョウ	モンキチョウ	<i>Colias erate poliographus</i>
		オオモンシロチョウ	<i>Pieris brassicae</i>
		スジグロシロチョウ	<i>Pieris melete melete</i>

表 5.6-11 昆虫類確認種一覧

(15/17)

目名	科名	種名	学名
チョウ	シロチョウ	エゾスジグロシロチョウ	<i>Pieris dulcinea</i>
		モンシロチョウ	<i>Pieris rapae crucivora</i>
	シジミチョウ	カラスシジミ	<i>Fixsenia w-album fentoni</i>
		ベニシジミ	<i>Lycaena phlaeas daimio</i>
		ルリシジミ	<i>Celastrina argiolus ladonides</i>
		ツバメシジミ	<i>Everes argiades argiades</i>
		ウスイロオナガシジミ	<i>Antigius butleri</i>
		ジョウザンミドリシジミ	<i>Favonius taxila</i>
		オオミドリシジミ	<i>Favonius orientalis orientalis</i>
		トラフシジミ	<i>Rapala arata</i>
ムモンアカシジミ		<i>Shirozua jonasi</i>	
タテハチョウ	コムラサキ	<i>Apatura metis substituta</i>	
	ミドリヒョウモン	<i>Argynnis paphia tsushimana</i>	
	ウラギンスジヒョウモン	<i>Argyronome laodice japonica</i>	
	オオウラギンスジヒョウモン	<i>Argyronome ruslana lysippe</i>	
	ウラギンヒョウモン	<i>Fabriciana adippe pallescens</i>	
	フタスジチョウ	<i>Neptis rivularis bergmanii</i>	
	コムスジ	<i>Neptis sappho intermedia</i>	
	エルタテハ	<i>Nymphalis l-album samurai</i>	
	アカタテハ	<i>Vanessa indica indica</i>	
ジャノメチョウ	クロヒカゲ	<i>Lethe diana diana</i>	
	ジャノメチョウ	<i>Minois dryas bipunctata</i>	
	サトキマダラヒカゲ	<i>Neope goschkevitschii goschkevitschii</i>	
	ヤマキマダラヒカゲ	<i>Neope nipponica nipponica</i>	
	ヒメウラナミジャノメ	<i>Ypthima argus argus</i>	
	ヒメキマダラヒカゲ	<i>Zophoessa callipteris callipteris</i>	
カキハカ	マエキカギバ	<i>Agnidra scabiosa scabiosa</i>	
	ウスイロカギバ	<i>Callidrepana palleola</i>	
	アシベニカギバ	<i>Oreta pulchripes</i>	
	ネグロトガリバ	<i>Mimopsestis basalis basalis</i>	
ツバメカ	クロホシフタオ	<i>Dysaethria moza</i>	
シャクカ	キタマダラエダシャク	<i>Abraxas sylvata microtate</i>	
	クロミスジシロエダシャク	<i>Myrteta angelica angelica</i>	
	ミスジコナフエダシャク	<i>Cabera insulata</i>	
	ヒロオビトンボエダシャク	<i>Cystidia truncangulata</i>	
	ネグロエダシャク	<i>Ramobia basifuscaria</i>	
	ナカジロネグロエダシャク	<i>Ramobia mediodivisa</i>	
	ウストビスジエダシャク	<i>Ectropis aigneri</i>	
	オオバナミガタエダシャク	<i>Hypomecis lunifera</i>	
	シタクモエダシャク	<i>Microcalicha sordida</i>	
	キマダラツバメエダシャク	<i>Thinopteryx crocoptera striolata</i>	
	ウスクモエダシャク	<i>Menophra senilis</i>	
	クワエダシャク	<i>Phthonandria atrilineata</i>	
	キリバエダシャク	<i>Ennomos nephotropa autumnaria</i>	
	キマダラツマキリエダシャク	<i>Zanclidia testacea</i>	
	ムラサキエダシャク	<i>Selenia tetralunaria</i>	
	キバラエダシャク	<i>Garaeus specularis</i>	
	ツマキリエダシャク	<i>Endropiodes abjectus abjectus</i>	
	ナカキエダシャク	<i>Plagodis dolabraria</i>	
	シロツバメエダシャク	<i>Ourapteryx maculicaudaria</i>	
	オオアヤシャク	<i>Pachista superans</i>	
	チズモンアオシャク	<i>Agathia carissima carissima</i>	
	ホソバナミシャク	<i>Tyloptera bella bella</i>	

表 5.6-11 昆虫類確認種一覧

(16/17)

目名	科名	種名	学名
チョウ	シャクカ <sup>*</sup>	ハコベナミシャク	<i>Euphyia cineraria</i>
		テンヅマナミシャク	<i>Telenomeuta punctimarginaria punctimarginaria</i>
		キマダラオオナミシャク	<i>Gandaritis fixseni</i>
		ウストビモンナミシャク	<i>Eulithis ledereri</i>
		ヒメハガタナミシャク	<i>Ecliptopera silaceata leuca</i>
		オオハガタナミシャク	<i>Ecliptopera umbrosaria umbrosaria</i>
		ハガタナミシャク	<i>Eustroma melancholica melancholica</i>
		キホソスジナミシャク	<i>Lobogonodes erectaria</i>
		ビロードナミシャク	<i>Sibatania mactata</i>
	シャチホコカ <sup>*</sup>	クワゴモドキシャチホコ	<i>Gonoclostera timoniorum</i>
		ウスヅマシャチホコ	<i>Lophontosia cuculus</i>
		アオバシャチホコ	<i>Zeranga permagna</i>
		スジモクメシャチホコ	<i>Hupodonta lignea</i>
		ヤスジシャチホコ	<i>Epodonta lineata</i>
		カエデシャチホコ	<i>Semidonta biloba</i>
		ハイイロシャチホコ	<i>Microphalera grisea grisea</i>
	ト <sup>*</sup> カ <sup>*</sup>	キアシドクガ	<i>Ivela auripes</i>
		マイマイガ日本亜種	<i>Lymantria dispar japonica</i>
		ノンネマイマイ	<i>Lymantria monacha</i>
		カシワマイマイ	<i>Lymantria mathura aurora</i>
	ヒトリカ <sup>*</sup>	クロスジホソバ	<i>Pelosia noctis</i>
		キシタホソバ	<i>Eilema vetusta aegrota</i>
		ニセキマエホソバ	<i>Eilema nankingica</i>
		アカスジシロコケガ	<i>Cyana hamata hamata</i>
		ハガタバニコケガ	<i>Barsine aberrans askoldensis</i>
	ヤカ <sup>*</sup>	テシクロアツバ	<i>Rivula sericealis</i>
		ヒメナミグルマアツバ	<i>Anatatha misae</i>
		ハスオビヒメアツバ	<i>Schrankia separatalis</i>
		シロオビクルマコヤガ	<i>Trisateles emortualis</i>
		キンスジアツバ	<i>Colobochyla salicalis</i>
		シロモンツマキリアツバ	<i>Pangrapta umbrosa</i>
		クルマアツバ	<i>Paracolax tristalis</i>
		シロホシクロアツバ	<i>Idia curvipalpis</i>
		ヒロオビウスグロアツバ	<i>Hydrillodes morosa</i>
		ウスグロアツバ	<i>Traudinges fumosa</i>
		クロスジアツバ	<i>Herminia grisealis</i>
アケビコノハ		<i>Eudocima tyrannus</i>	
オニベニシタバ		<i>Catocala dula</i>	
エゾシロシタバ		<i>Catocala dissimilis dissimilis</i>	
クビグロクチバ		<i>Lygephila maxima</i>	
コウンモンクチバ		<i>Blasticorhinus ussuriensis</i>	
ガマキンウワバ		<i>Autographa gamma</i>	
フタスジコヤガ		<i>Deltote bankiana amurula</i>	
シマカラスヨトウ		<i>Amphipyra pyramidea yama</i>	
ツマジロカラスヨトウ		<i>Amphipyra schrenckii</i>	
オオタバコガ		<i>Helicoverpa armigera armigera</i>	
ツメクサガ		<i>Heliothis maritima adaucta</i>	
スジキリヨトウ		<i>Spodoptera depravata</i>	
ヒメサビスジヨトウ		<i>Athetis stellata</i>	
ハガタアオヨトウ		<i>Trachea tokiensis</i>	
ノコメセダカヨトウ		<i>Orthogonia sera</i>	
マツバラシラクモヨトウ		<i>Apamea remissa</i>	
クサビヨトウ		<i>Lateroligia ophiogramma</i>	

表 5.6-11 昆虫類確認種一覧

(17/17)

目名	科名	種名	学名
チョウ	ヤカ	ヨコスジヨトウ	<i>Mesoligia furuncula</i>
		フキヨトウ	<i>Hydraecia petasitis amurensis</i>
		キトガリキリガ	<i>Telorta edentata</i>
		イタヤキリガ	<i>Cosmia trapezina exigua</i>
		ハルタギンガ	<i>Chasminodes albonitens</i>
		クロハナギンガ	<i>Chasminodes sugii</i>
		エゾクロギンガ	<i>Chasminodes atratus</i>
		オオハガタヨトウ	<i>Mniotype melanodonta</i>
		オオチャイロヨトウ	<i>Polia bombycina grisea</i>
		ヨトウガ	<i>Mamestra brassicae</i>
		エゾチャイロヨトウ	<i>Lacanobia splendens</i>
		オオフタオビキヨトウ	<i>Mythimna grandis</i>
		ナガフタオビキヨトウ	<i>Mythimna divergens divergens</i>
		センモンヤガ	<i>Agrotis exclamationis informis</i>
		ホシボシヤガ	<i>Hermonassa arenosa</i>
		カバスジヤガ	<i>Sineugraphe exusta</i>
		ウスイロアカフヤガ	<i>Diarsia ruficauda</i>
シロモンヤガ	<i>Xestia c-nigrum</i>		
キシタミドリヤガ	<i>Xestia efflorescens</i>		
16 目	193 科	860 種	

※種名、学名および種の配列は原則として「日本産野生生物目録－無脊椎動物編Ⅱ」(環境庁 1995)、「日本昆虫目録 第2～5、8～9 巻」(一般社団法人日本昆虫学会 2014～2020)、「日本産蛾類標準図鑑Ⅰ～Ⅳ」(学研 2011～2013)、図鑑等を参考にした。

※ ■ は重要種、 ■ は外来種を示す。

## 2) 重要種

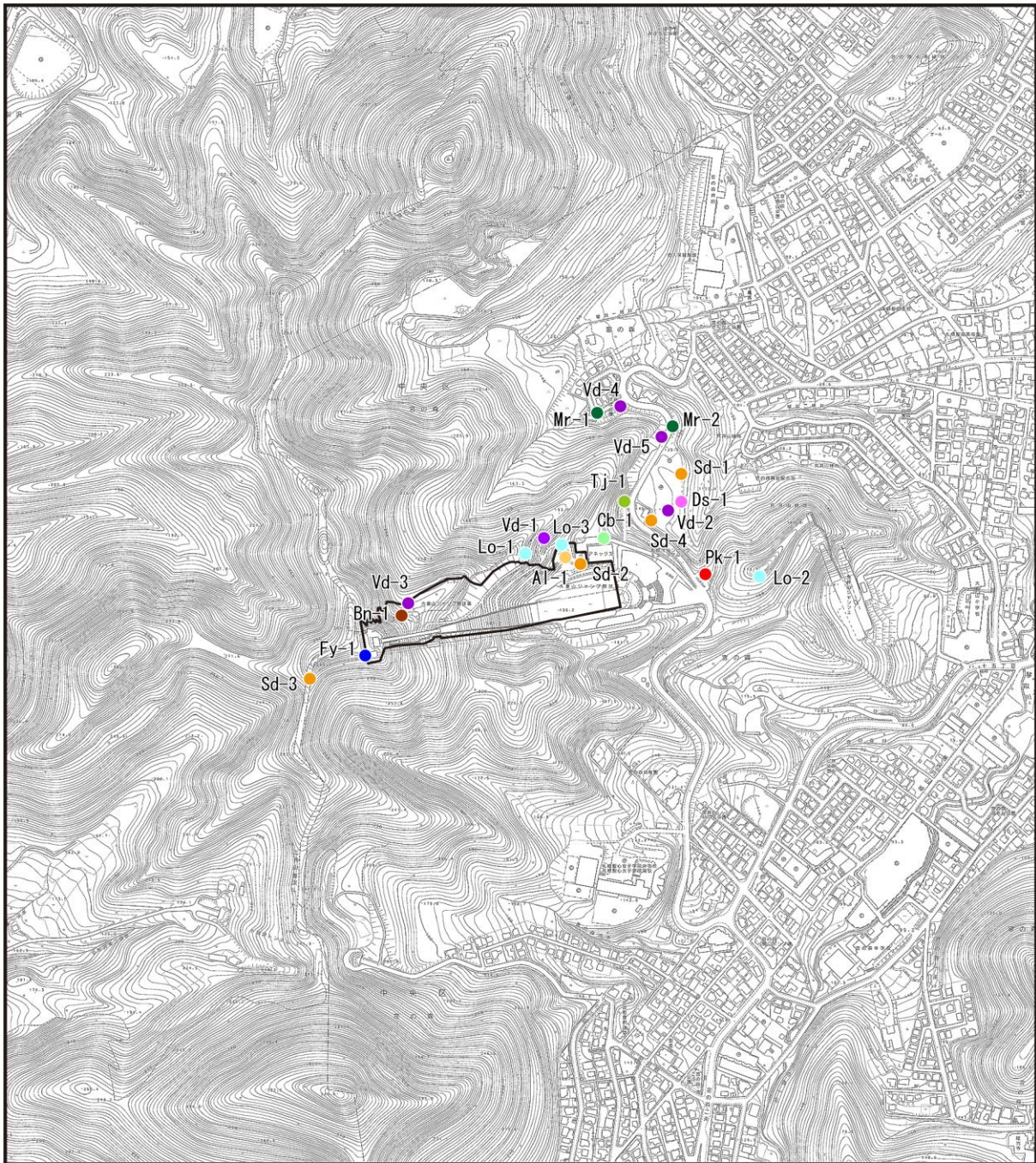
昆虫類確認種のうち、環境省レッドリスト等で選定されている重要種としては、表 5.6-12 に示す 11 種が該当する。これら重要種の確認位置は図 5.6-9 に示すとおりである。

表 5.6-12 昆虫類重要種一覧

科名	種名	重要種選定基準						
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
トンボ	ナツアカネ						R	
ホタルモドキ	ホソホタルモドキ						Nt	NT
ハムシ	コニシケブカハムシ						Nt	
ヒゲナガゾウムシ	マダラフトヒゲナガゾウムシ						R	NT
アリ	テラニシケアリ					NT		
	エゾアカヤマアリ					VU		
スズメバチ	チャイロスズメバチ						R	
クサアブ	ネグロクサアブ					DD		DD
ハナアブ	ジョウザンナガハナアブ						R	NT
イエバエ	キバネクロバエ						R	
タテハチョウ	ウラギンスジヒョウモン					VU		
10 科	11 種	なし	なし	なし	なし	4 種	7 種	4 種

※重要種選定基準および各基準の指定ランクの略記号の説明は以下のとおりである。

- ① 「文化財保護法」(昭和 25 年 法律第 214 号)
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 法律第 75 号)
- ③ 「北海道文化財保護条例」(昭和 30 年 北海道条例第 83 号)
- ④ 「北海道生物の多様性の保全等に関する条例」(平成 25 年 北海道条例第 9 号)
- ⑤ 「環境省レッドリスト 2020」(令和 2 年環境省)  
EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR:絶滅危惧 I A 類、EN:絶滅危惧 I B 類、  
VU:絶滅危惧 II 類、NT:準絶滅危惧、LP:絶滅のおそれのある地域個体群、  
DD:情報不足
- ⑥ 「北海道レッドデータブック」(平成 13 年 北海道)  
「北海道レッドリスト【昆虫類チョウ目編、コウチュウ目編」(平成 28、31 年 北海道)  
Ex:絶滅種、Ew:野生絶滅種、Cr:絶滅危機種、En:絶滅危惧種、  
Vu:絶滅危急種、Nt:準絶滅危惧、R:希少種、N:留意種、Lp:絶滅のおそれのある地域個体群、  
Dd:情報不足  
※選定基準(カテゴリー)は、改訂版のものに準拠した。
- ⑦ 「札幌市版レッドリスト 2016」(平成 28 年 札幌市)  
EX+EW:今見られない、CR:絶滅危惧 I A 類、EN:絶滅危惧 I B 類、  
VU:絶滅危惧 II 類、NT:準絶滅危惧、N:留意種、  
DD:情報不足



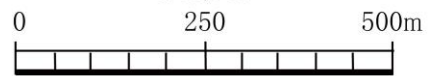
凡 例

- ナツアカネ (Sd)
- ホソホテルモドキ (Ds)
- コシケブカハムシ (Pk)
- マダラフトヒゲナガゾウムシ (Bn)
- テラニシケアリ (Lo)
- エゾアカヤマアリ (Fy)
- チャイロスズメバチ (Vd)
- ネグロクサアブ (Cb)
- ジョウザンナガハナアブ (Tj)
- キバネクロバエ (Mr)
- ウラギンスジヒョウモン (Al)

□ 事業実施区域



1:10,000



※この地図は、札幌市発行の現況図 (1/2,500) を使用したものです。

図 5.6-9 昆虫類重要種確認位置図

### 3) 外来種

昆虫類確認種のうち、外来生物法や北海道ブルーリスト等で選定されている外来種としては、表 5.6-13 に示す 3 種が該当する。この中で特に侵略性の高い種としては、セイヨウオオマルハナバチが挙げられる。

表 5.6-13 昆虫類外来種一覧

科名	種名	外来種選定基準			
		①	②	③	④
オサムシ	コルリアトキリゴミムシ				外 A3
ミツバチ	セイヨウオオマルハナバチ	特定	産業		外 A1
シロチョウ	オオモンシロチョウ				外 A3
3 科	3 種	1 種	1 種	なし	3 種

※外来種選定基準および各基準の指定ランクの略記号の説明は以下のとおりである。

- ①「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(外来生物法)」(平成 16 年 法律第 78 号)
  - 特定：特定外来生物 …海外起源の生物であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、または被害を及ぼすおそれがあるもの。
  - 未判定：未判定外来生物 …特定外来生物とは別に生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼす疑いがあるか、実態がよく分かっていない海外起源のもの。
- ②「北海道生物の多様性の保全等に関する条例」(平成 25 年 北海道条例第 9 号)
  - 指定：指定外来種 …本来道内に生息・生育していない動植物のうち、国外または国内から道内に持ち込まれ、道内の生物多様性に著しい影響を及ぼす、または及ぼすおそれがあるもの。
- ③「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」(平成 27 年 環境省・農林水産省)
  - 緊急：緊急対策外来種 …対策の緊急性が高く、特に各主体がそれぞれの役割において、積極的に防除を行う必要があるもの。
  - 重点：重点対策外来種 …甚大な被害が予想されるため、特に各主体のそれぞれの役割における対策の必要性が高いもの。
  - 他対策：その他総合対策外来種
  - 侵入予防：侵入予防外来種 …国内未侵入の種。特に導入の予防、水際での監視、バラスト水対策等で国内への侵入を未然に防ぐ必要があるもの。
  - 定着予防：定着予防外来種 …侵入の情報はあるが、定着は確認されていない種。
  - 産業管理：産業管理外来種 …産業または公益的役割において重要で、代替性がなく、その利用にあたっては適切な管理をおこなうことが必要な外来種。
- ④「北海道の外来種リストー北海道ブルーリスト 2010ー」(平成 22 年 北海道)
  - 国外：国外外来種
  - 国内：国内外来種
  - A1：緊急に防除対策が必要な外来種。
  - A2：本道への生態系への大きな影響を及ぼしており、防除対策の必要性について検討する外来種。
  - A3：本道に定着しており、生態系への影響が報告または懸念されている外来種。
  - B：北海道に人為的に導入され、定着しているが、影響等は報告されていないもの。
  - C：北海道に人為的に導入され、定着することは可能であるが、定着しているかどうかは不明なもの。影響等は報告されている。
  - D：北海道に人為的に導入され、定着することは可能であるが、定着しているかどうかは不明なもの。影響等は報告されていない。
  - E：北海道に人為的に導入され、定着することは可能であるが、定着はしていないもの。しかし、影響等は報告されている。
  - h：北海道に人為的に導入されている可能性が高く、導入されると定着し影響が懸念される等注意が必要なもの。

#### (6) 底生動物調査

現地調査の結果、事業実施区域およびその周辺において、環境省レッドリスト等で選定されている重要種ニホンザリガニは確認されなかった。

## 5.6.6 予測評価

### (1) 予測項目

予測項目は、土地または工作物の存在および供用（地形改変後の土地および工作物の存在）に伴う重要な動物種および重要な生息地への影響の程度とした。

外来種については、影響程度を予測することは困難なため予測項目から除外した。

### (2) 予測方法

重要な動物種および重要な生息地については、図 5.6-10 に示すとおり、現地調査結果に基づき、希少性等の観点から選定した重要種の生息地と事業計画および工事計画とを重ね合わせ、重要種および重要な生息地への直接改変の有無を検討した。また、直接改変がない場合であっても、生息環境の質的変化の可能性について検討した。

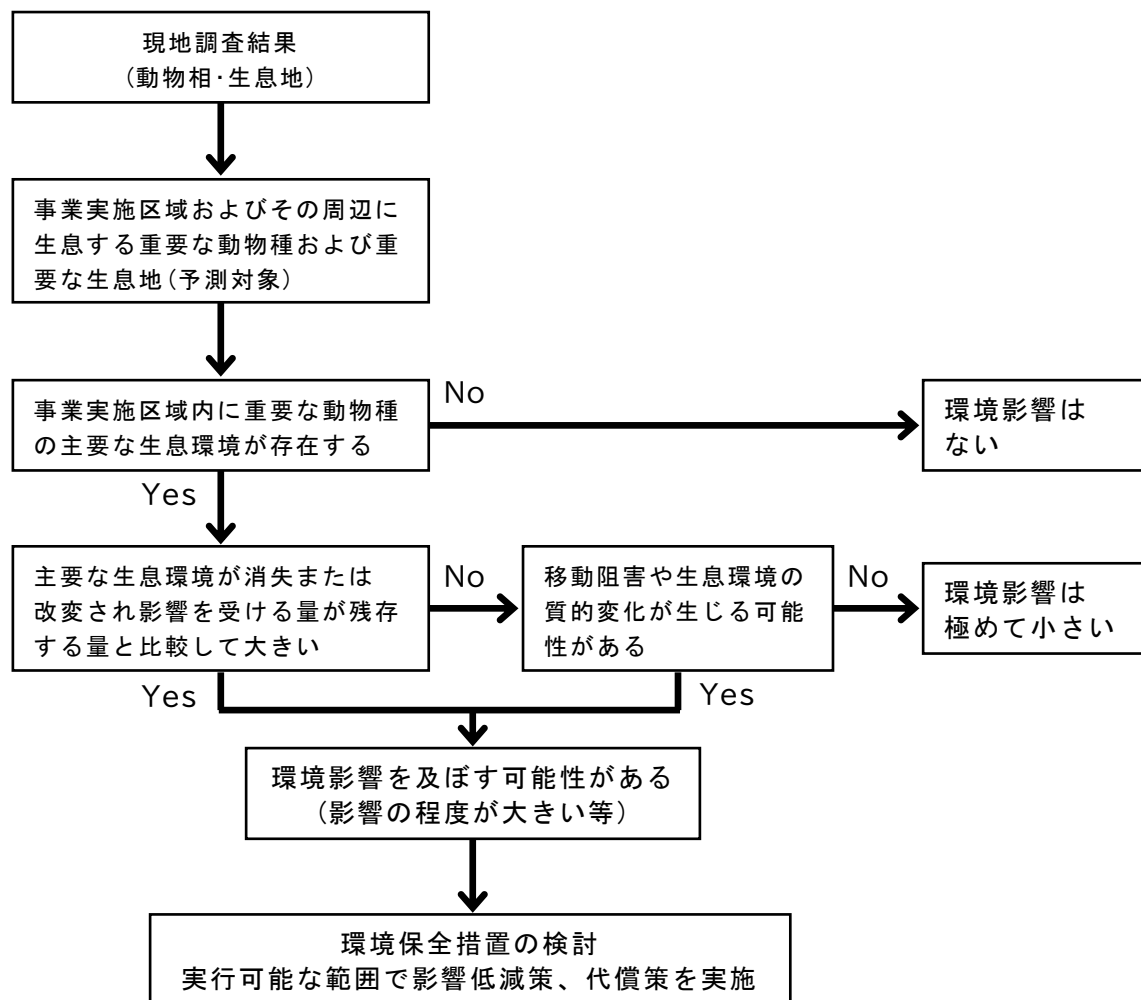


図 5.6-10 予測の基本的な考え方

重要な種および重要な生息地への改変がある場合、直接改変がなくても生育環境に質的変化が生じる可能性がある場合は、実行可能な範囲で影響低減策、または代償案を講じることとする。

(3) 予測地域

予測地域は、事業実施区域およびその周辺(事業実施区域境界から 250m の範囲)とした。

(4) 予測時期

予測時期は、供用開始後事業活動が定常状態に達した時期とした。

(5) 予測対象種

予測対象種は、表 5.6-14 に示すとおり、現地調査において事業実施区域およびその周辺で確認された重要な動物種および重要な生息地とした。

表 5.6-14 予測対象種

項目	科名	種名	予測対象
哺乳類	キクガシラコウモリ	キクガシラコウモリ	○
	(コウモリ目)	コウモリ目 A	○
	(コウモリ目)	コウモリ目 B	○
	クマ	ヒグマ	○
鳥類	ヨタカ	ヨタカ	○
	シギ	ヤマシギ	○
	カモメ	オオセグロカモメ	○
	タカ	ハチクマ	○
		ハイタカ	○
		オオタカ	○
	キツツキ	オオアカゲラ	○
		クマガラ	○
	ハヤブサ	ハヤブサ	○
	ムシクイ	オオムシクイ	○
両生類	サンショウウオ	エゾサンショウウオ	○
昆虫類	トンボ	ナツアカネ	○
	ホタルモドキ	ホソホタルモドキ	○
	ハムシ	コニシケブカハムシ	○
	ヒゲナガゾウムシ	マダラフトヒゲナガゾウムシ	○
	アリ	テラニシケアリ	○
		エゾアカヤマアリ	○
	スズメバチ	チャイロスズメバチ	○
	クサアブ	ネグロクサアブ	○
	ハナアブ	ジョウザンナガハナアブ	○
	イエバエ	キバネクロバエ	○
	タテハチョウ	ウラギンスジヒョウモン	○
		22 科	26 種

※コウモリ目 A およびコウモリ目 B は、鳴き声の周波数から、下記種のいずれかと考えられる。  
 コウモリ目 A…ヤマコウモリ、コヤマコウモリ、キタクビワコウモリ、ヒメヒナコウモリ、ヒナコウモリ、オヒキコウモリ  
 コウモリ目 B…ヒメホオヒゲコウモリ、ウスリホオヒゲコウモリ、カグヤコウモリ、ドーバントンコウモリ、チチブコウモリ、ニホンウサギコウモリ、コテングコウモリ、テングコウモリ

※予測対象 ○：予測対象とする、×：予測対象としない

(6) 予測結果

事業実施区域およびその周辺で確認された予測対象種(重要な動物種)の予測結果は、表 5.6-15～表 5.6-40 に示すとおりである。

表 5.6-15 重要な動物種への影響の予測結果(キクガシラコウモリ)

種名(学名)		キクガシラコウモリ ( <i>Rhinolophus ferrumequinum</i> )				
一般生態		国内では北海道、本州、四国、九州(トカラ列島以北)に分布する。洞穴性で、自然洞窟や廃坑、隧道、防空壕等をねぐらとするが、しばしば人家も利用する。森林内では樹冠～底層部を飛行し、飛行昆虫類を捕食する。夏季は妊娠獣を中心とした出産保育コロニーを形成する。11月頃～4月頃は冬眠する。				
生息状況	現地確認状況	<p>・事業実施区域内外の1地点(半径50mの範囲)で確認された。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業実施区域内</th> <th>事業実施区域外</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </tbody> </table>	事業実施区域内	事業実施区域外	○	○
	事業実施区域内	事業実施区域外				
○	○					
生息地と事業実施区域との位置関係	<p>・本種は、バットディテクターにより飛行中の鳴き声が頻繁に確認された。</p> <p>・事業実施区域およびその周辺には、本種のねぐら環境である自然洞窟等は確認されていない。</p> <p>・事業実施区域およびその周辺の樹林地は、本種の採餌環境となっていると考えられる。</p>					
影響予測	土地または工作物の存在および供用	<p>・土地または工作物の存在および供用により、本種の採餌環境である樹林地の一部は消失する。</p> <p>・しかし、消失する樹林地と同質な環境は、事業実施区域およびその周辺に広く分布しており、本種はそれらを利用することで生息し続けることは可能と考えられる。</p> <p>・以上のことから、土地または工作物の存在および供用による本種への環境影響は極めて小さいと予測される。</p>				

表 5.6-16 重要な動物種への影響の予測結果(コウモリ目 A)

種名(学名)		コウモリ目 A (CHIROPTERA sp.A) ※鳴き声の周波数から、ヤマコウモリ、コヤマコウモリ、キタクビコウモリ、ヒメヒナコウモリ、ヒナコウモリ、オヒキコウモリのいずれかと考えられる。				
一般生態		いずれも林冠上や開けた空間を飛行し、ハエやガ、甲虫類等の昆虫類を採餌する。ねぐらは、種により異なるが、樹洞や小鳥用巣箱や人家、人口構造物の隙間、岩の割れ目等を利用する。				
生息状況	現地確認状況	・事業実施区域内外の 1 地点(半径 50m の範囲)で確認された。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">事業実施区域内</td> <td style="text-align: center;">事業実施区域外</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </table>	事業実施区域内	事業実施区域外	○	○
	事業実施区域内	事業実施区域外				
○	○					
	生息地と事業実施区域との位置関係	・本種は、バットディテクターにより飛行中の鳴き声が頻繁に確認された。 ・事業実施区域およびその周辺は、本種のねぐらや採餌環境となっていると考えられる。				
影響予測	土地または工作物の存在および供用	・土地または工作物の存在および供用により、本種のねぐらや採餌環境である樹林地の一部は消失する。 ・消失する樹林地内の樹洞等を本種がねぐらとして利用している可能性が考えられる。 ・以上のことから、土地または工作物の存在および供用により、本種へ環境影響を及ぼす可能性があるとして予測される。				

表 5.6-17 重要な動物種への影響の予測結果(コウモリ目 B)

種名(学名)		コウモリ目 B (CHIROPTERA sp.B) ※鳴き声の周波数から、ヒメホオヒゲコウモリ、ウスリホオヒゲコウモリ、カグヤコウモリ、ドーベントンコウモリ、クロオオアブラコウモリ、チチブコウモリ、ニホンウサギコウモリ、コテングコウモリ、テングコウモリのいずれかと考えられる。				
一般生態		いずれも樹林地内を飛行し、ハエやガ、甲虫類等の昆虫類を採餌する。ねぐらは、種により異なるが、樹洞、枯死木や生木の樹皮下、木造家屋の板壁の隙間、コンクリート製橋桁の裏、隧道や廃坑、自然洞窟等を利用する。				
生息状況	現地確認状況	・事業実施区域内外の 1 地点(半径 50m の範囲)で確認された。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">事業実施区域内</td> <td style="text-align: center;">事業実施区域外</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </table>	事業実施区域内	事業実施区域外	○	○
	事業実施区域内	事業実施区域外				
○	○					
	生息地と事業実施区域との位置関係	・本種は、バットディテクターにより飛行中の鳴き声が頻繁に確認された。 ・事業実施区域およびその周辺は、本種のねぐらや採餌環境となっていると考えられる。				
影響予測	土地または工作物の存在および供用	・土地または工作物の存在および供用により、本種のねぐらや採餌環境である樹林地の一部は消失する。 ・消失する樹林地内の樹洞等を本種がねぐらとして利用している可能性が考えられる。 ・以上のことから、土地または工作物の存在および供用により、本種へ環境影響を及ぼす可能性があるとして予測される。				

表 5.6-18 重要な動物種への影響の予測結果(ヒグマ)

種名(学名)		ヒグマ ( <i>Ursus arctos yesoensis</i> )				
一般生態		<p>国内では北海道に分布する。                  森林原野に生息する。雑食性で、春はフキやササ等の植物の根茎を、夏は野イチゴ類やアリ類、秋にはコクワやミズナラ等の実、サケマス等を採食する。                  メスの行動圏は数十 km<sup>2</sup> とされ、オスは数百 km<sup>2</sup> ある。                  12月中旬～4月末頃まで土穴で冬眠し、冬眠中に1～2頭の仔を産む。子グマは1～2年は母グマと行動する。</p>				
生息状況	現地確認状況	<p>・事業実施区域内では1地点で確認された。                  ・事業実施区域外では7地点で確認された。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 50%;">事業実施区域内</td> <td style="width: 50%;">事業実施区域外</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table>	事業実施区域内	事業実施区域外	○	○
	事業実施区域内	事業実施区域外				
○	○					
	生息地と事業実施区域との位置関係	<p>・本種は、自動撮影カメラで頻繁に確認されている。そのほとんどが親子グマで同一個体と考えられる。                  ・事業実施区域およびその周辺は、本種(個体)の主要な生息地の一部と考えられる。</p>				
影響予測	土地または工作物の存在および供用	<p>・土地または工作物の存在および供用により、本種の主要な生息地である樹林地の一部は消失する。                  ・しかし、消失する樹林地と同質な環境は、事業実施区域およびその周辺に広く分布しており、本種はそれらを利用することで生息し続けることは可能と考えられる。                  ・以上のことから、土地または工作物の存在および供用による本種への環境影響は極めて小さいと予測される。</p>				

表 5.6-19 重要な動物種への影響の予測結果(ヨタカ)

種名(学名)		ヨタカ ( <i>Caprimulgus indicus</i> )				
一般生態		国内では九州以北の全土で繁殖する夏鳥。 平地～山地の森林に生息する。草原や灌木が散在する落葉広葉樹や針葉樹の林で地面が乾いた明るい林を好む。飛びながら昆虫類を採食する。				
生息状況	現地確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月～6月に1例確認された。</li> <li>・事業実施区域内外の1地点(半径50mの範囲)で確認された。</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>事業実施区域内</td> <td>事業実施区域外</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </table>	事業実施区域内	事業実施区域外	○	○
	事業実施区域内	事業実施区域外				
○	○					
	生息地と事業実施区域との位置関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種は、ICレコーダーにより飛翔中の鳴き声が頻繁に確認された。</li> <li>・事業実施区域およびその周辺には、本種が生息可能な樹林地は分布しているが、本種の営巣利用は確認されなかった。</li> <li>・事業実施区域周辺の樹林地は、本種の採餌環境の一部と考えられる。</li> </ul>				
影響予測	土地または工作物の存在および供用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地または工作物の存在および供用により、本種の採餌環境である樹林地の一部は消失する。</li> <li>・しかし、消失する樹林地と同質な環境は、事業実施区域およびその周辺に広く分布しており、本種はそれらを利用することで生息し続けることは可能と考えられる。</li> <li>・以上のことから、土地または工作物の存在および供用による本種への環境影響は極めて小さいと予測される。</li> </ul>				

表 5.6-20 重要な動物種への影響の予測結果(ヤマシギ)

種名(学名)		ヤマシギ ( <i>Scolopax rusticola</i> )				
一般生態		日本全国に分布する。北海道では夏鳥として渡来し、繁殖する。低地から山地の森林や農耕地、水湿地等に生息する。夜行性で朝夕の薄暮時や夜間に見られる。林床を歩き、ミミズや昆虫等を捕食する。詳しい繁殖生態は不明。				
生息状況	現地確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月～6月に1例確認された。</li> <li>・事業実施区域内外の1地点(半径50mの範囲)で確認された。</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>事業実施区域内</td> <td>事業実施区域外</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </table>	事業実施区域内	事業実施区域外	○	○
	事業実施区域内	事業実施区域外				
○	○					
	生息地と事業実施区域との位置関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種は、ICレコーダーにより飛翔中の鳴き声が確認された。</li> <li>・事業実施区域およびその周辺には、本種が営巣可能な樹林地は分布しているが、本種の営巣利用は確認されなかった。</li> <li>・事業実施区域周辺の樹林地は、本種の採餌環境の一部と考えられる。</li> </ul>				
影響予測	土地または工作物の存在および供用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地または工作物の存在および供用により、本種の採餌環境である樹林地の一部は消失する。</li> <li>・しかし、消失する樹林地と同質な環境は、事業実施区域およびその周辺に広く分布しており、本種はそれらを利用することで生息し続けることは可能と考えられる。</li> <li>・以上のことから、土地または工作物の存在および供用による本種への環境影響は極めて小さいと予測される。</li> </ul>				

表 5.6-21 重要な動物種への影響の予測結果(オオセグロカモメ)

種名(学名)		オオセグロカモメ ( <i>Larus schistisagus</i> )				
一般生態		北海道と東北地方北部で繁殖する留鳥。 海岸、河川下流域、沿岸湖沼に生息し、河川沿いにかなり内陸の水域まで入り込むことも少なくない。岬等の海岸や小島で繁殖し、小規模なコロニーは全道各地で見られる。魚等の海辺の動物やその死骸を食べる。				
生息状況	現地確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月に5例、7月に3例確認された。</li> <li>・事業実施区域内で5例確認された。</li> <li>・事業実施区域外では3例確認された。</li> <li>・事業実施区域周辺で営巣地は確認されなかった。</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>事業実施区域内</td> <td>事業実施区域外</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </table>	事業実施区域内	事業実施区域外	○	○
	事業実施区域内	事業実施区域外				
○	○					
	生息地と事業実施区域との位置関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確認された個体のすべてが移動飛行中のものであった。</li> <li>・事業実施区域およびその周辺には、本種が営巣可能な環境はない。</li> <li>・事業実施区域およびその周辺では、本種の採餌環境である河川や湖沼もない。</li> </ul>				
影響予測	土地または工作物の存在および供用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施区域およびその周辺は本種の主要な生息環境ではない。</li> <li>・以上のことから、土地または工作物の存在および供用による本種への環境影響はないと予測される。</li> </ul>				

表 5.6-22 重要な動物種への影響の予測結果(ハチクマ)

種名(学名)		ハチクマ ( <i>Pernis ptilorhynchus</i> )				
一般生態		国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。 平地～低山の森林に生息する夏鳥。スズメバチ類の巣を襲い、幼虫や蛹を好んで食べる。そのほか、昆虫やカエル、ヘビ、トカゲ、小型哺乳類等も食べる。他のタカ類やカラス類の古巣を利用することが多い。				
生息状況	現地確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月に6例、7月に1例確認された。</li> <li>・事業実施区域内で2例確認された。</li> <li>・事業実施区域外では5例確認された。</li> <li>・事業実施区域周辺で営巣地は確認されなかった。</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>事業実施区域内</td> <td>事業実施区域外</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </table>	事業実施区域内	事業実施区域外	○	○
	事業実施区域内	事業実施区域外				
○	○					
	生息地と事業実施区域との位置関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確認された個体のいずれもが移動飛行中のもので、繁殖を示唆する行動は確認されなかった。</li> <li>・事業実施区域およびその周辺には、古巣は確認されていないが、本種が営巣可能な樹林地が分布している。</li> <li>・事業実施区域およびその周辺は、本種の餌動物であるヘビ類やトカゲ類、スズメバチ類がよく確認されており、本種の採餌環境となっていると考えられる。</li> </ul>				
影響予測	土地または工作物の存在および供用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地または工作物の存在および供用により、本種の営巣可能な樹林地や採餌環境である雑草地の一部は消失する。</li> <li>・しかし、消失する樹林地や雑草地と同質な環境は、事業実施区域およびその周辺に広く分布しており、本種はそれらを利用することで生息し続けることは可能と考えられる。</li> <li>・以上のことから、土地または工作物の存在および供用による本種への環境影響は極めて小さいと予測される。</li> </ul>				

表 5.6-23 重要な動物種への影響の予測結果(ハイタカ)

種名(学名)		ハイタカ ( <i>Accipiter nisus</i> )				
一般生態		国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。 年間を通して平地～比較的標高の高い山地の森林で見られる。秋季に多くの個体が南方へ移動する。森林、疎林、草地で小鳥類を捕食する。カラマツやトドマツの比較的混み入った林で営巣する。				
生息状況	現地確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月に2例、6月1例、10月に1例、12月に1例確認された。</li> <li>・事業実施区域内で2例確認された。</li> <li>・事業実施区域外では1例確認された。</li> <li>・事業実施区域周辺で重要な営巣地は確認されなかった。</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>事業実施区域内</td> <td>事業実施区域外</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </table>	事業実施区域内	事業実施区域外	○	○
	事業実施区域内	事業実施区域外				
○	○					
	生息地と事業実施区域との位置関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確認された個体のすべてが移動飛行中のもので、繁殖を示唆する行動は確認されなかった。</li> <li>・事業実施区域およびその周辺には、本種が営巣可能な樹林地は少なく、利用可能な古巣も確認されていない。</li> <li>・事業実施区域およびその周辺は、本種の餌動物である小鳥類がよく確認されており、本種の採餌環境となっていると考えられる。</li> </ul>				
影響予測	土地または工作物の存在および供用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地または工作物の存在および供用により、本種の採餌環境である樹林地や雑草地の一部が消失する。</li> <li>・しかし、消失する樹林地や雑草地と同質な環境は、事業実施区域およびその周辺に広く分布しており、本種はそれらを利用することで生息し続けることは可能と考えられる。</li> <li>・以上のことから、土地または工作物の存在および供用による本種への環境影響は極めて小さいと予測される。</li> </ul>				

表 5.6-24 重要な動物種への影響の予測結果(オオタカ)

種名(学名)		オオタカ ( <i>Accipiter gentilis</i> )				
一般生態		国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。 年間を通して平地～低山の森林、農耕地、原野等で見られる。秋季に多くの個体が南方へ移動する。主に小～中型鳥類を捕食するほか、エゾリス等を捕らえることもある。カラマツ林や、農耕地では落葉広葉樹の防風林でも営巣例がある。				
生息状況	現地確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月に1例確認された。</li> <li>・事業実施区域内で1例確認された。</li> <li>・事業実施区域外では確認されなかった。</li> <li>・事業実施区域周辺で営巣地は確認されなかった。</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>事業実施区域内</td> <td>事業実施区域外</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </table>	事業実施区域内	事業実施区域外	○	○
	事業実施区域内	事業実施区域外				
○	○					
	生息地と事業実施区域との位置関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確認された個体は移動飛行中のものであった。</li> <li>・事業実施区域およびその周辺には、本種が営巣可能な樹林地は少なく、利用可能な古巣も確認されていない。</li> <li>・事業実施区域およびその周辺は、餌動物である小鳥類等がよく確認されており、本種の採餌環境となっていると考えられる。</li> </ul>				
影響予測	土地または工作物の存在および供用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地または工作物の存在および供用により、本種の採餌環境である樹林地や雑草地の一部が消失する。</li> <li>・しかし、消失する樹林地や雑草地と同質な環境は、事業実施区域およびその周辺に広く分布しており、本種はそれらを利用することで生息し続けることは可能と考えられる。</li> <li>・以上のことから、土地または工作物の存在および供用による本種への環境影響は極めて小さいと予測される。</li> </ul>				

表 5.6-25 重要な動物種への影響の予測結果(オオアカゲラ)

種名(学名)		オオアカゲラ ( <i>Dendrocopos major</i> )				
一般生態		北海道では留鳥。山地の落葉広葉樹林や針広混交林に生息する。主に昆虫類の幼虫を採餌する。秋冬にはナナカマド等の木の実を食する。大木にくちばしで穴を掘って巣を作る。				
生息状況	現地確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月に1例、7月に1例、12月に1例確認された。</li> <li>・事業実施区域内では確認されなかった。</li> <li>・事業実施区域外では3例確認された。</li> <li>・事業実施区域周辺で重要な営巣地は確認されなかった。</li> </ul> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>事業実施区域内</td> <td>事業実施区域外</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </table>	事業実施区域内	事業実施区域外		○
	事業実施区域内	事業実施区域外				
	○					
	生息地と事業実施区域との位置関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確認された個体のすべてが移動・採餌中のものであった。</li> <li>・事業実施区域およびその周辺には、本種が営巣可能な樹林地が分布している。キツツキ類の古巣も確認されているが、本種の営巣利用は確認されなかった。</li> <li>・事業実施区域周辺の樹林地では、採餌行動や採餌痕が確認されており、本種の採餌環境となっている。</li> </ul>				
影響予測	土地または工作物の存在および供用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地または工作物の存在および供用により、本種の営巣環境および採餌環境である樹林地の一部が消失する。</li> <li>・しかし、消失する樹林地と同質な環境は、事業実施区域およびその周辺に広く分布しており、本種はそれらを利用することで生息し続けることは可能と考えられる。</li> <li>・以上のことから、土地または工作物の存在および供用による本種への環境影響は極めて小さいと予測される。</li> </ul>				

表 5.6-26 重要な動物種への影響の予測結果(クマゲラ)

種名(学名)		クマゲラ ( <i>Dryocopus martius</i> )				
一般生態		国内では北海道と東北地方の一部に分布する。年間を通して山地や平野部の原生林、大木の多い広大な森林で見られる。主に樹木に潜むアリ類のほか、樹皮下の昆虫類等も採食する。樹木の種子も食べる。真っ直ぐで下枝がなく、滑らかな樹皮の大木に巣穴を掘る(営巣木)。また、1本の木に複数の穴を開けたねぐら木を持つ。				
生息状況	現地確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月に2例、5月に11例、6月に16例、7月に13例、10月に1例確認された。</li> <li>・事業実施区域内で5例確認された。</li> <li>・事業実施区域外では38例確認された。</li> <li>・事業実施区域周辺で営巣地は確認されなかった。</li> <li>・事業実施区域の南に位置する奥三角山では、本種の営巣の可能性が示唆された。</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>事業実施区域内</td> <td>事業実施区域外</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table>	事業実施区域内	事業実施区域外	○	○
	事業実施区域内	事業実施区域外				
○	○					
	生息地と事業実施区域との位置関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施区域内で確認された個体のほとんどは移動飛行中(鳴き声)のものであった。</li> <li>・事業実施区域およびその周辺には、本種が営巣可能な樹林地が分布している。古巣も確認されているが、営巣利用は確認されなかった。</li> <li>・事業実施区域周辺の樹林地では、採餌痕が多数確認されており、本種の採餌環境となっている。</li> <li>・営巣の可能性が示唆された奥三角山は、事業実施区域から約1kmの位置にある。</li> </ul>				
影響予測	土地または工作物の存在および供用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地または工作物の存在および供用により、本種の営巣環境および採餌環境である樹林地の一部が消失する。</li> <li>・しかし、消失する雑草地や樹林地と同質な環境は、事業実施区域およびその周辺に広く分布しており、本種はそれらを利用することで生息し続けることは可能と考えられる。</li> <li>・以上のことから、土地または工作物の存在および供用による本種への環境影響は極めて小さいと予測される。</li> <li>・なお、事業実施区域およびその周辺は、本種の主要な生息地の一部であり、将来直近で営巣する可能性も考えられるため、今後の生息・営巣状況に注視する必要がある。</li> </ul>				

表 5.6-27 重要な動物種への影響の予測結果(ハヤブサ)

種名(学名)		ハヤブサ ( <i>Falco peregrinus</i> )				
一般生態		国内では北海道、本州、四国、九州とこれらに付属する小島などに分布する。 年間を通じて崖のある海岸、農耕地、原野、内陸河川、ダム湖で見られる。主に小～中型の鳥類を空中で掴み取る、または蹴り落とす等して捕食する。多くは海岸の断崖で、少数が内陸の河食崖等の岩棚や横穴で営巣する。				
生息状況	現地確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月に1例確認された。</li> <li>・事業実施区域内では確認されなかった。</li> <li>・事業実施区域外で1例確認された。</li> <li>・事業実施区域周辺で営巣地は確認されなかった。</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">事業実施区域内</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">事業実施区域外</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </table>	事業実施区域内	事業実施区域外	○	○
	事業実施区域内	事業実施区域外				
○	○					
	生息地と事業実施区域との位置関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確認された個体は移動飛翔中のもので、繁殖を示唆する行動は確認されなかった。</li> <li>・事業実施区域およびその周辺には本種が営巣可能な崖地はない。</li> <li>・事業実施区域およびその周辺は、本種の餌動物である小鳥類がよく確認されており、本種の採餌環境となっていると考えられる。</li> </ul>				
影響予測	土地または工作物の存在および供用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施区域およびその周辺に本種の営巣環境はない。</li> <li>・土地または工作物の存在および供用により、本種の採餌環境である樹林地や雑草地の一部が消失する。</li> <li>・しかし、消失する樹林地や雑草地と同質な環境は、事業実施区域およびその周辺に広く分布しており、本種はそれらを利用することで生息し続けることは可能と考えられる。</li> <li>・以上のことから、土地または工作物の存在および供用による本種への環境影響は極めて小さいと予測される。</li> </ul>				

表 5.6-28 重要な動物種への影響の予測結果(オオムシクイ)

種名(学名)		オオムシクイ ( <i>Phylloscopus examinandus</i> )				
一般生態		北海道では旅鳥であるが、一部は夏鳥として局地的に繁殖。繁殖地はカムチャツカ半島、サハリン、千島列島である。道内では知床半島の亜高山帯が知られている。 公園緑地や河畔林、防風林等に生息する。				
生息状況	現地確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月に2例、6月に1例確認された。</li> <li>・事業実施区域内では1例確認された。</li> <li>・事業実施区域外では2例確認された。</li> <li>・事業実施区域周辺で営巣地は確認されなかった。</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">事業実施区域内</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">事業実施区域外</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </table>	事業実施区域内	事業実施区域外	○	○
	事業実施区域内	事業実施区域外				
○	○					
	生息地と事業実施区域との位置関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確認された個体は鳴き声であった。営巣地へ向かう渡り途中の個体と考えられる。</li> <li>・事業実施区域およびその周辺に営巣地はない(道内では)。</li> <li>・事業実施区域内の雑草地や周辺は、渡り途中の一時的な生息環境と考えられる。</li> </ul>				
影響予測	土地または工作物の存在および供用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地または工作物の存在および供用により、生息環境である樹林地の一部が消失する。</li> <li>・しかし、消失する樹林地と同質な環境は、事業実施区域およびその周辺に広く分布しており、本種はそれらを利用することで生息し続けることは可能と考えられる。</li> <li>・以上のことから、土地または工作物の存在および供用による本種への環境影響は極めて小さいと予測される。</li> </ul>				

表 5.6-29 重要な動物種への影響の予測結果(エゾサンショウウオ)

種名(学名)		エゾサンショウウオ ( <i>Hynobius retardatus</i> )				
一般生態		北海道にのみ分布する。 平地から高山の水場の近い森林内に生息する。林床の石や朽木の下に潜み、小さな昆虫やクモ等を食べる。 産卵場は池沼や湧き水のある水たまりで、雪解け後の4月上旬～6月頃に産卵する。孵化後の幼生は夏に上陸するが、水温の低い環境では幼生のまま越冬する個体もいる。				
生息状況	現地確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施区域内では確認されなかった。</li> <li>・事業実施区域外では1地点(卵囊4対)で確認された。</li> </ul> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="width: 50%;">事業実施区域内</td> <td style="width: 50%;">事業実施区域外</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </table>	事業実施区域内	事業実施区域外		○
	事業実施区域内	事業実施区域外				
	○					
	生息地と事業実施区域との位置関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・営巣地(産卵場所)は琴似1号川の源流部であった。</li> <li>・事業実施区域およびその周辺の樹林地は、幼生上陸後の主要な生息環境であると考えられる。</li> </ul>				
影響予測	土地または工作物の存在および供用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地または工作物の存在および供用により、本種の産卵場所は改変されない。施設からの排水もない。一方、幼生上陸後の主要な生息環境である樹林地の一部は消失する。</li> <li>・しかし、消失する樹林地と同質な環境は、事業実施区域およびその周辺に広く分布しており、本種はそれらを利用することで生息し続けることは可能と考えられる。</li> <li>・以上のことから、土地または工作物の存在および供用による本種への環境影響は極めて小さいと予測される。</li> </ul>				

表 5.6-30 重要な動物種への影響の予測結果(ナツアカネ)

種名(学名)		ナツアカネ ( <i>Sympetrum darwinianum</i> )				
一般生態		北海道ではほぼ全域で見られる。 平地～丘陵地の池沼、休耕田に生息する。成虫の出現時期は7月下旬～10月上旬で、羽化水域からあまり遠くない木立等で生活する。成熟すると水辺に戻り、草むら上を低く滞空しながら打空産卵する。				
生息状況	現地確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施区域内では1地点(1個体)で確認された。</li> <li>・事業実施区域外では3地点(3個体)で確認された。</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>事業実施区域内</td> <td>事業実施区域外</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table>	事業実施区域内	事業実施区域外	○	○
	事業実施区域内	事業実施区域外				
○	○					
	生息地と事業実施区域との位置関係	・事業実施区域およびその周辺の樹林地および雑草地は、本種の主要な生息環境であると考えられる。				
影響予測	土地または工作物の存在および供用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地または工作物の存在および供用により、本種の主要な生息環境である樹林地や雑草地の一部が消失する。</li> <li>・しかし、消失する樹林地や雑草地と同質な環境は、事業実施区域およびその周辺に広く分布しており、本種はそれらを利用することで生息し続けることは可能と考えられる。</li> <li>・以上のことから、土地または工作物の存在および供用による本種への環境影響は極めて小さいと予測される。</li> </ul>				

表 5.6-31 重要な動物種への影響の予測結果(ホソホタルモドキ)

種名(学名)		ホソホタルモドキ ( <i>Drilonius striatulus</i> )				
一般生態		北海道、本州、四国、九州に分布する。 6月～7月に発生する。餌は水のみ。				
生息状況	現地確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施区域内では確認されなかった。</li> <li>・事業実施区域外では1地点(1個体)で確認された。</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>事業実施区域内</td> <td>事業実施区域外</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○</td> </tr> </table>	事業実施区域内	事業実施区域外		○
	事業実施区域内	事業実施区域外				
	○					
	生息地と事業実施区域との位置関係	・事業実施区域およびその周辺の樹林地は、本種の主要な生息環境であると考えられる。				
影響予測	土地または工作物の存在および供用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地または工作物の存在および供用により、本種の主要な生息環境である樹林地の一部が消失する。</li> <li>・しかし、消失する樹林地と同質な環境は、事業実施区域およびその周辺に広く分布しており、本種はそれらを利用することで生息し続けることは可能と考えられる。</li> <li>・以上のことから、土地または工作物の存在および供用による本種への環境影響は極めて小さいと予測される。</li> </ul>				

表 5.6-32 重要な動物種への影響の予測結果(コニシケブカハムシ)

種名(学名)		コニシケブカハムシ ( <i>Pyrrhalta konishii</i> )				
一般生態		北海道に分布する。本州では青森県、秋田県、宮城県、栃木県での記録がある。				
生息状況	現地確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施区域内では確認されなかった。</li> <li>・事業実施区域外では1地点(1個体)で確認された。</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>事業実施区域内</td> <td>事業実施区域外</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○</td> </tr> </table>	事業実施区域内	事業実施区域外		○
	事業実施区域内	事業実施区域外				
	○					
	生息地と事業実施区域との位置関係	・事業実施区域およびその周辺の樹林地は、本種の主要な生息環境であると考えられる。				
影響予測	土地または工作物の存在および供用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地または工作物の存在および供用により、本種の主要な生息環境である樹林地の一部が消失する。</li> <li>・しかし、消失する樹林地と同質な環境は、事業実施区域およびその周辺に広く分布しており、本種はそれらを利用することで生息し続けることは可能と考えられる。</li> <li>・以上のことから、土地または工作物の存在および供用による本種への環境影響は極めて小さいと予測される。</li> </ul>				

表 5.6-33 重要な動物種への影響の予測結果(マダラフトヒゲナガゾウムシ)

種名(学名)		マダラフトヒゲナガゾウムシ ( <i>Basitropis nitidicutis</i> )				
一般生態		国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。				
生息状況	現地確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施区域内では1地点(1個体)で確認された。</li> <li>・事業実施区域外では確認されなかった。</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>事業実施区域内</td> <td>事業実施区域外</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td></td> </tr> </table>	事業実施区域内	事業実施区域外	○	
	事業実施区域内	事業実施区域外				
○						
	生息地と事業実施区域との位置関係	・事業実施区域およびその周辺の樹林地は、本種の主要な生息環境であると考えられる。				
影響予測	土地または工作物の存在および供用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地または工作物の存在および供用により、本種の主要な生息環境である樹林地の一部が消失する。</li> <li>・しかし、消失する樹林地と同質な環境は、事業実施区域およびその周辺に広く分布しており、本種はそれらを利用することで生息し続けることは可能と考えられる。</li> <li>・以上のことから、土地または工作物の存在および供用による本種への環境影響は極めて小さいと予測される。</li> </ul>				

表 5.6-34 重要な動物種への影響の予測結果(テラニシケアリ)

種名(学名)		テラニシケアリ ( <i>Lasius orientalis</i> )				
一般生態		国内では北海道、本州中部以北に分布する。 山地～亜高山帯に生息する。7月下旬～8月に結婚飛行(羽アリ分散)がおこなわれる。				
生息状況	現地確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施区域内では1地点(6個体)で確認された。</li> <li>・事業実施区域外では2地点(計19個体)で確認された。</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>事業実施区域内</td> <td>事業実施区域外</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </table>	事業実施区域内	事業実施区域外	○	○
	事業実施区域内	事業実施区域外				
○	○					
	生息地と事業実施区域との位置関係	・事業実施区域およびその周辺の樹林地は、本種の主要な生息環境であると考えられる。				
影響予測	土地または工作物の存在および供用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地または工作物の存在および供用により、本種の主要な生息環境である樹林地の一部が消失する。</li> <li>・しかし、消失する樹林地と同質な環境は、事業実施区域およびその周辺に広く分布しており、本種はそれらを利用することで生息し続けることは可能と考えられる。</li> <li>・以上のことから、土地または工作物の存在および供用による本種への環境影響は極めて小さいと予測される。</li> </ul>				

表 5.6-35 重要な動物種への影響の予測結果(エゾアカヤマアリ)

種名(学名)		エゾアカヤマアリ ( <i>Formica yessensis</i> )				
一般生態		国内では北海道南西部、本州中部以北に分布する。 枯草や針葉樹の落葉で塚を作る。石狩浜に巨大なコロニーがあることで知られている。8月に結婚飛行(羽アリ分散)がおこなわれる。				
生息状況	現地確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施区域内では1地点(2個体)で確認された。</li> <li>・事業実施区域外では確認されなかった。</li> <li>・事業実施区域およびその周辺で重要な生息地(営巣地)は確認されなかった。</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>事業実施区域内</td> <td>事業実施区域外</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> </tr> </table>	事業実施区域内	事業実施区域外	○	
	事業実施区域内	事業実施区域外				
○						
	生息地と事業実施区域との位置関係	・事業実施区域およびその周辺の樹林地および雑草地は、本種の主要な生息環境であると考えられる。				
影響予測	土地または工作物の存在および供用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地または工作物の存在および供用により、本種の主要な生息環境である樹林地や雑草地の一部が消失する。</li> <li>・しかし、消失する樹林地や雑草地と同質な環境は、事業実施区域およびその周辺に広く分布しており、本種はそれらを利用することで生息し続けることは可能と考えられる。</li> <li>・以上のことから、土地または工作物の存在および供用による本種への環境影響は極めて小さいと予測される。</li> </ul>				

表 5.6-36 重要な動物種への影響の予測結果(チャイロスズメバチ)

種名(学名)		チャイロスズメバチ ( <i>Vespa dybowskii</i> )				
一般生態		国内では北海道、本州中部以北に分布する。平地～山地に生息する。7月～9月に発生する。樹洞等に営巣するが、モンズズメバチやキイロスズメバチの巣に寄生して、女王を殺し、代わって産卵する。攻撃性は強い。				
生息状況	現地確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施区域内では1地点(1個体)で確認された。</li> <li>・事業実施区域外では4地点(計4個体)で確認された。</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>事業実施区域内</td> <td>事業実施区域外</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table>	事業実施区域内	事業実施区域外	○	○
	事業実施区域内	事業実施区域外				
○	○					
	生息地と事業実施区域との位置関係	・事業実施区域およびその周辺の樹林地は、本種の主要な生息環境であると考えられる。				
影響予測	土地または工作物の存在および供用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地または工作物の存在および供用により、本種の主要な生息環境である樹林地の一部が消失する。</li> <li>・しかし、消失する樹林地と同質な環境は、事業実施区域およびその周辺に広く分布しており、本種はそれらを利用することで生息し続けることは可能と考えられる。</li> <li>・以上のことから、土地または工作物の存在および供用による本種への環境影響は極めて小さいと予測される。</li> </ul>				

表 5.6-37 重要な動物種への影響の予測結果(ネグロクサアブ)

種名(学名)		ネグロクサアブ ( <i>Coenomyia basalis</i> )				
一般生態		日本全国に分布する。山地に生息する。6～8月に発生する。幼虫は朽木や土中で生活する。				
生息状況	現地確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施区域内では確認されなかった。</li> <li>・事業実施区域外では1地点(1個体)で確認された。</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>事業実施区域内</td> <td>事業実施区域外</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○</td> </tr> </table>	事業実施区域内	事業実施区域外		○
	事業実施区域内	事業実施区域外				
	○					
	生息地と事業実施区域との位置関係	・事業実施区域およびその周辺の樹林地は、本種の主要な生息環境であると考えられる。				
影響予測	土地または工作物の存在および供用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地または工作物の存在および供用により、本種の主要な生息環境である樹林地の一部が消失する。</li> <li>・しかし、消失する樹林地と同質な環境は、事業実施区域およびその周辺に広く分布しており、本種はそれらを利用することで生息し続けることは可能と考えられる。</li> <li>・以上のことから、土地または工作物の存在および供用による本種への環境影響は極めて小さいと予測される。</li> </ul>				

表 5.6-38 重要な動物種への影響の予測結果(ジョウザンナガハナアブ)

種名(学名)		ジョウザンナガハナアブ ( <i>Temnostoma jozankeanum</i> )				
一般生態		国内では北海道に分布する。 山地に生息する。6月に発生する。幼虫は樹皮下や朽木の腐朽部で生活する。				
生息状況	現地確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施区域内では確認されなかった。</li> <li>・事業実施区域外では1地点(1個体)で確認された。</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>事業実施区域内</td> <td>事業実施区域外</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○</td> </tr> </table>	事業実施区域内	事業実施区域外		○
	事業実施区域内	事業実施区域外				
	○					
	生息地と事業実施区域との位置関係	・事業実施区域およびその周辺の樹林地は、本種の主要な生息環境であると考えられる。				
影響予測	土地または工作物の存在および供用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地または工作物の存在および供用により、本種の主要な生息環境である樹林地の一部が消失する。</li> <li>・しかし、消失する樹林地と同質な環境は、事業実施区域およびその周辺に広く分布しており、本種はそれらを利用することで生息し続けることは可能と考えられる。</li> <li>・以上のことから、土地または工作物の存在および供用による本種への環境影響は極めて小さいと予測される。</li> </ul>				

表 5.6-39 重要な動物種への影響の予測結果(キバネクロバエ)

種名(学名)		キバネクロバエ ( <i>Mesembrina resplendens</i> )				
一般生態		北海道、本州に分布する。 山地の溪流の付近に多い。幼虫はヒグマの糞から確認されている。				
生息状況	現地確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施区域内では確認されなかった。</li> <li>・事業実施区域外では2地点(2個体)で確認された。</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>事業実施区域内</td> <td>事業実施区域外</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○</td> </tr> </table>	事業実施区域内	事業実施区域外		○
	事業実施区域内	事業実施区域外				
	○					
	生息地と事業実施区域との位置関係	・事業実施区域およびその周辺の樹林地は、本種の主要な生息環境であると考えられる。				
影響予測	土地または工作物の存在および供用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地または工作物の存在および供用により、本種の主要な生息環境である樹林地の一部が消失する。</li> <li>・しかし、消失する樹林地と同質な環境は、事業実施区域およびその周辺に広く分布しており、本種はそれらを利用することで生息し続けることは可能と考えられる。</li> <li>・以上のことから、土地または工作物の存在および供用による本種への環境影響は極めて小さいと予測される。</li> </ul>				

表 5.6-40 重要な動物種への影響の予測結果(ウラギンスジヒョウモン)

種名(学名)		ウラギンスジヒョウモン ( <i>Argyrozone laodice japonica</i> )				
一般生態		北海道、本州、四国、九州に分布する。 平野～低山地の雑木林縁の草地に多く、都市部の公園等でも見られる。7月中旬～9月に発生するが、盛夏は夏眠する。幼虫の食草はスミレ類。				
生息状況	現地確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施区域内では1地点(1個体)で確認された。</li> <li>・事業実施区域外では確認されなかった。</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>事業実施区域内</td> <td>事業実施区域外</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td></td> </tr> </table>	事業実施区域内	事業実施区域外	○	
	事業実施区域内	事業実施区域外				
○						
	生息地と事業実施区域との位置関係	・事業実施区域およびその周辺の樹林地および雑草地は、本種の主要な生息環境であると考えられる。				
影響予測	土地または工作物の存在および供用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地または工作物の存在および供用により、本種の主要な生息環境である樹林地や雑草地の一部が消失する。</li> <li>・しかし、消失する樹林地や雑草地と同質な環境は、事業実施区域およびその周辺に広く分布しており、本種はそれらを利用することで生息し続けることは可能と考えられる。</li> <li>・以上のことから、土地または工作物の存在および供用による本種への環境影響は極めて小さいと予測される。</li> </ul>				

## (7) 環境保全のための措置

環境影響が及ぼされる可能性があるとして予測された重要な動物種は、保全すべき種として表 5.6-41 に示すコウモリ目 A およびコウモリ目 B が抽出された。また、重要な猛禽類やクマゲラについては、事業による影響は極めて小さいと予測されたが、事業実施区域およびその周辺を主要な生息地の一部としており、今後事業実施区域の直近で営巣する可能性も考えられることから保全対象とした。

コウモリ類や重要な猛禽類、クマゲラに対する保全措置は、伐採時期の調整(繁殖期である 4 月～8 月の伐採中止)とする。また、コウモリ類については、伐採時に伐木をねぐら利用していた個体の保護(保護した場合の個体の取扱いについては専門家に相談)もおこなう。

表 5.6-41 重要な動物種への環境影響予測結果と保全対象検討結果

項目	種名	予測結果	保全対象
		土地または 工作物の存在 および供用	
哺乳類	キクガシラコウモリ	△	
	コウモリ目 A	×	●
	コウモリ目 B	×	●
	ヒグマ	△	
鳥類	ヨタカ	△	
	ヤマシギ	△	
	オオセグロカモメ	○	
	ハチクマ	△	●
	ハイタカ	△	●
	オオタカ	△	●
	オオアカゲラ	△	
	クマゲラ	△	●
	ハヤブサ	△	
	オオムシクイ	△	
両生類	エゾサンショウウオ	△	
昆虫類	ナツアカネ	△	
	ホソホタルモドキ	△	
	コニシケブカハムシ	△	
	マダラフトヒゲナガゾウムシ	△	
	テラニシケアリ	△	
	エゾアカヤマアリ	△	
	チャイロスズメバチ	△	
	ネグロクサアブ	△	
	ジョウザンナガハナアブ	△	
	キバネクロバエ	△	
	ウラギンスジヒョウモン	△	
		26 種	—

※予測結果 ○：影響はない、△：影響は極めて小さい、×：影響が及ぼされる可能性がある  
 ※保全対象 ●：保全対象種

また、事業実施区域およびその周辺の水域に生息する動物種についても、代償環境の創出としてビオトープを造成することとする。ビオトープの規模や位置は、今後の事業計画の見直し等で検討する。

## (8) 評価

事業実施区域およびその周辺に生息する重要な動物種のうち、影響は極めて小さい、または影響が及ぼされる可能性があると予測されたコウモリ類や重要な猛禽類、クマゲラについては、上記環境保全措置を講じることで、これらへの環境影響は低減されることが考えられる。

また、今後の工事の設計段階において、技術的な検討に基づき、樹木の伐採範囲を最小化する施工方法の採用や低騒音の建設機械の使用等の環境配慮対策を講じることで、環境影響はさらに低減されることが評価される。

以上のことから、事業の実施による重要な動物種への影響は、実行可能な範囲で低減されることが評価される。

## (9) 事後調査

コウモリ類、重要な猛禽類およびクマゲラについては、事業実施区域およびその周辺は主要な生息地の一部であり、今後事業実施区域の直近で営巣する可能性も考えられる。工事着手の前年にこれらの生息・営巣状況を調査し、その結果に応じて環境保全措置を検討することとする。

また、供用後におけるコウモリ類の生息状況(事業による影響)を把握するため、データロガー型バットディテクターを使用した鳴き声調査を実施する。

### 5.6.7 外来種への対応について

事業の実施により、外来種の分布拡大(特に侵略性の高いセイヨウオオマルハナバチには注意が必要)の可能性が懸念される。外来種については、前項と別に、事後調査を施設供用後に実施することとする。施設供用後に外来種の生息が確認された場合は、過去の調査結果と照合し、専門家と協議の上、その対応について検討する。